

数字で探る 港北のすがた

地域わかりマス 2017

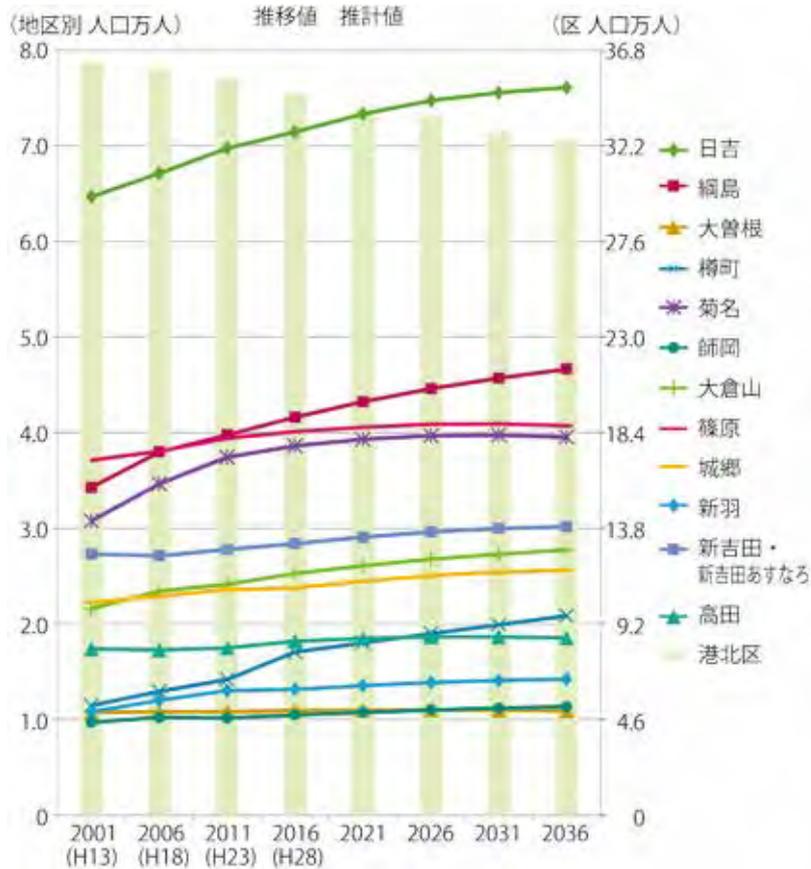


平成 29 年 8 月
港北区役所

もくじ

はじめに	1
人口と世帯	3 総人口の推移と将来推計 人口密度 2005-2010の人口密度の増減数 4 平均世帯規模 世帯数の推移 世帯の形
年齢別人口	5 人口ピラミッドの現在と将来推計 年齢3区分と75歳以上別の比率 6 年少人口と老年人口の指数 平均年齢
定住する理由	7 定住意向 居住年数 区民意識調査/住み続ける理由 8 住み続ける理由(区民意識調査ベスト10)
住宅概況	9 住宅概況 10 住宅のタイプ 住宅規模 戸建住宅と集合住宅の空家率
地域活動	11 文化・コミュニティ施設の分布 12 学校開放の状況 13 区民意識調査/参加している地域活動 力を入れて欲しい地域活動 14 区民意識調査/近所とのつながり 住み続ける理由[治安がよい] 地区別の犯罪発生件数の推移
医療	15 医療施設の分布 16 区民意識調査/住み続ける理由[病院が近くにある] 充実すべき公共サービス[病院や救急医療など地域医療]
福祉と教育	17 高齢者福祉施設の分布 18 区民意識調査/自分の病気や老後の相談先 自分が高齢者などにしてあげられる支援 高齢者の暮らし方 要介護者数 19 保育所・幼稚園の分布 20 未就学児(0~5歳人口)の人口数 主な子育て世代(25-39歳)の女性人口あたりの未就学児数 21 学童施設等の分布 22 6-14歳の人口数 区民意識調査/住み続ける理由[子育てや教育環境が良い]
防災	23 地域防災拠点と広域避難場所 24 区民意識調査/防災[必要な防災対策 地域防災拠点の認知状況 地域防災拠点訓練の参加経験]
自然と公園	25 緑被と公園等の分布 26 区民意識調査/住み続ける理由[緑や自然が多い]地区別の緑被の内訳 充実すべき緑に関する公共サービス
生活利便	27 生活利便施設の分布 28 公共交通網のカバー圏
交通	29 鉄道駅別一日あたりの乗車客数 30 区民の通勤・通学の状況 区民の区内従業者割合
産業	31 産業の分布 32 産業構造 大規模小売店舗の事業規模の推移 33 事業所数 従業者数 農業の就業者数 製造業の従業者数 34 地区別のサービス業の業種内訳 サービス業の従業者数
現在の土地利用	35 自然的土地利用と都市的土地利用

総人口数の推移と将来推計 (推移値：住民基本台帳人口)



港北区の総人口数 34.6 万人は、市内 18 区の中で最も多く、人口減少社会に入っても、増加傾向が続くことが予想されています。

地区別では、日吉、綱島、榑町、地区の増加傾向が大きい(左図)です。

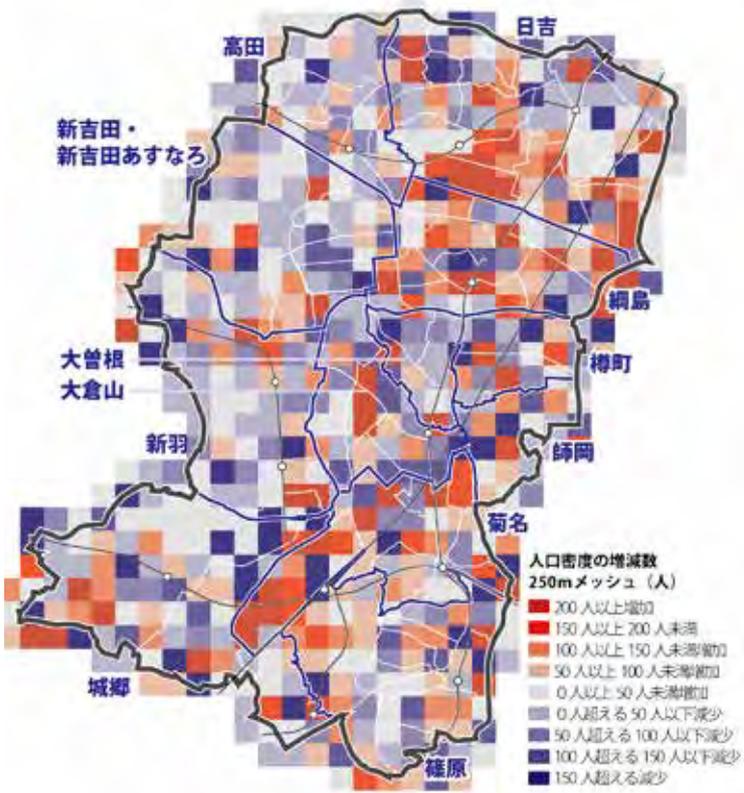
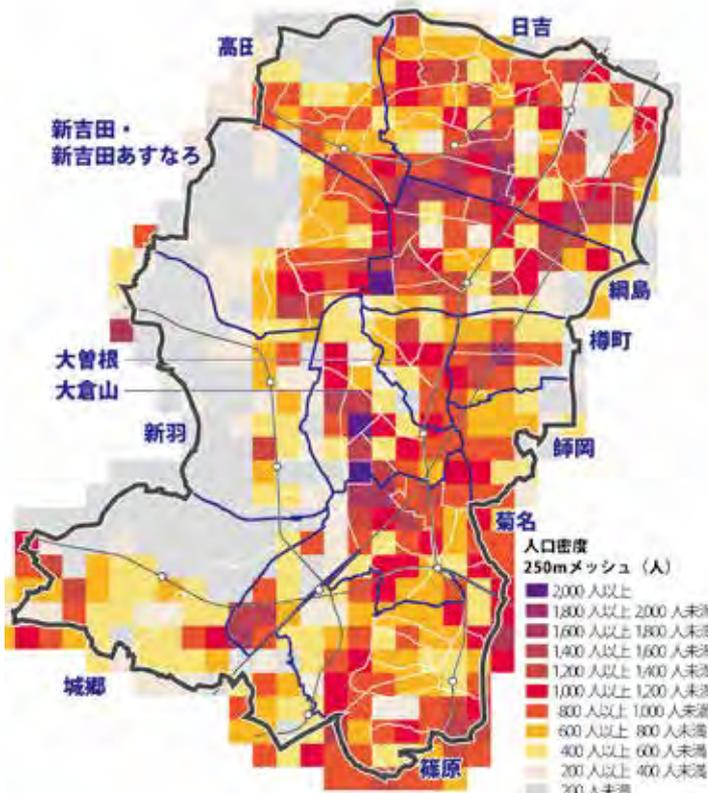
また、区の人口密度 (10,492.7 人 / Km²) は、全市値 (8,433.8 人 / Km²) や全国値 (343.4 人 / Km²) を大きく上回っています。東急東横線沿いに人口密度の高い地区が集中していますが、より高密度な(下左図内の濃橙色～紫色)地区は、鉄道路線から離れた内陸部に分布しています。(下左図)

人口密度の高低に関わらず、人口数の増減はモザイク状に分布しています。(下右図)

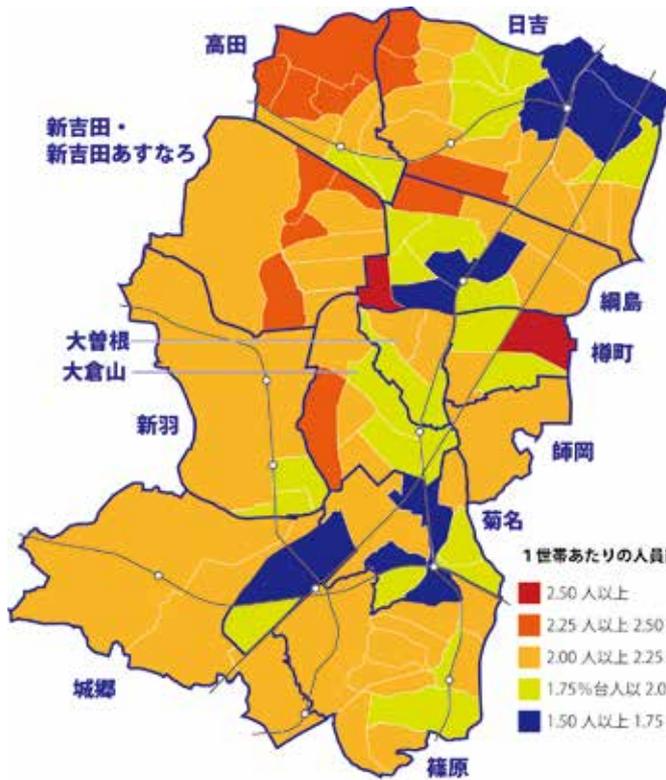
※将来人口は、住民基本台帳人口を用いてコーホート要因法にて算出した。基準とするコーホート変化率は 2011 年から 2016 年の値を使用し、移動率は現状維持、合計出生率は 1.35 で推移するものと仮定している。移動率と生存率の変化率は、国立社会保障人口問題研究所の推計 (H25 年 3 月公表) のうち、港北区の値を使用している。

人口密度 (2010 国勢調査メッシュ)

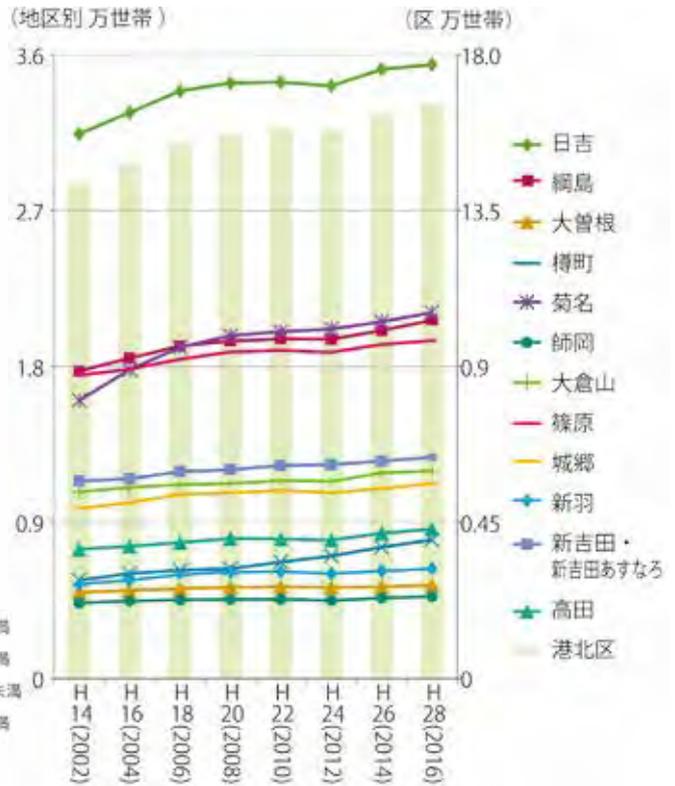
2005-2010 の人口密度の増減数 (2010 国勢調査メッシュ)



平均世帯規模 (登録者数 2016年9月住民基本台帳人口)



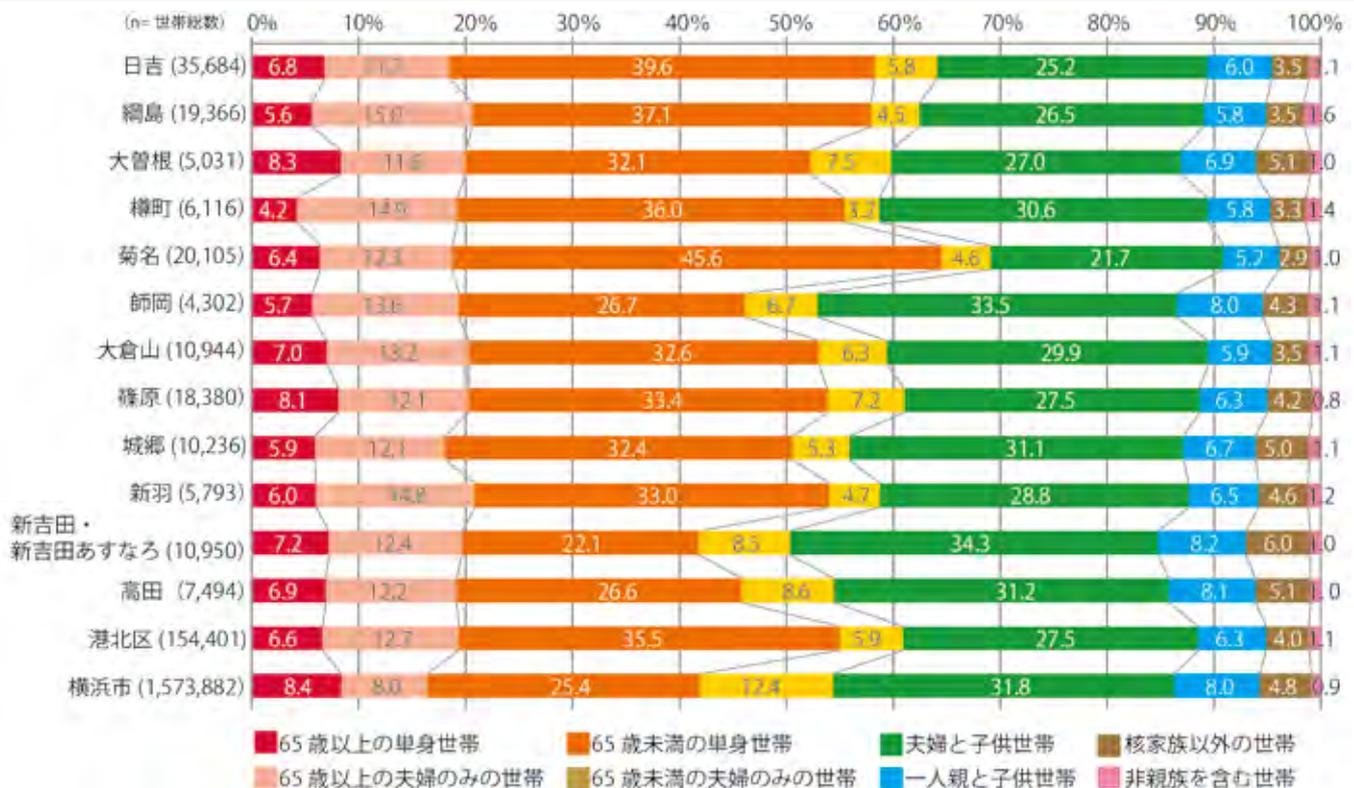
世帯数の推移 (住民基本台帳人口)



区の平均世帯規模は(2.05人/世帯)です。総世帯数は増加していますが、世帯規模が2.25人/世帯以上の大きい(上左図の橙色~赤色)地区は鉄道駅から離れた地区に、世帯規模が2.0人/世帯未満の小さい(上左図の黄色~青色)地区は鉄道駅を持つ地区に集中しています。

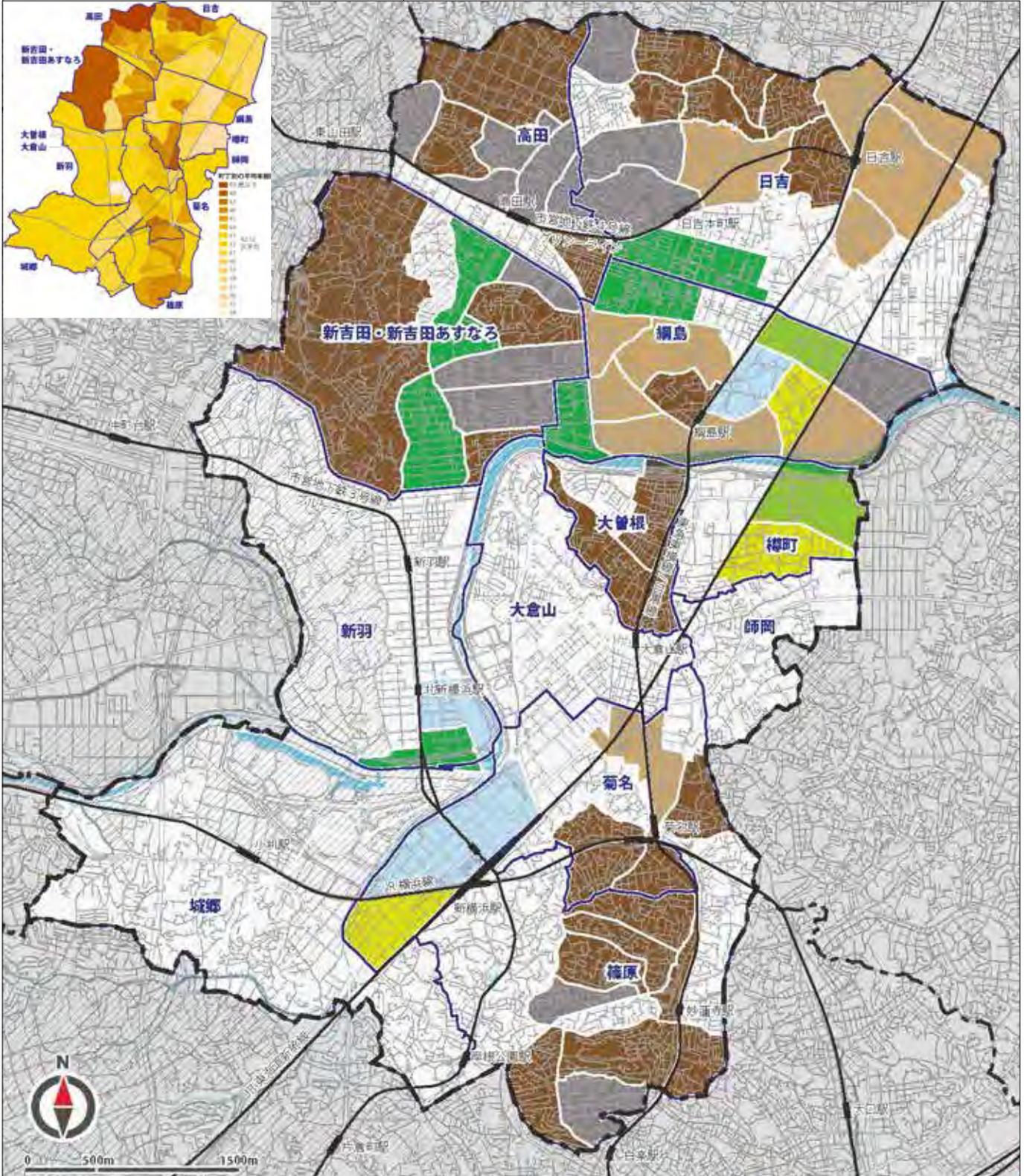
港北区で最も多いのが、65歳未満の単身世帯で全世帯のうち約35.5%を占めています。横浜市全域と比較しても単身世帯が多いことが区の世帯構成の特徴で、全ての地区で単身世帯割合が30%を超えており、特に、菊名地区では、50%を超えています。

世帯の形 (2010国勢調査)

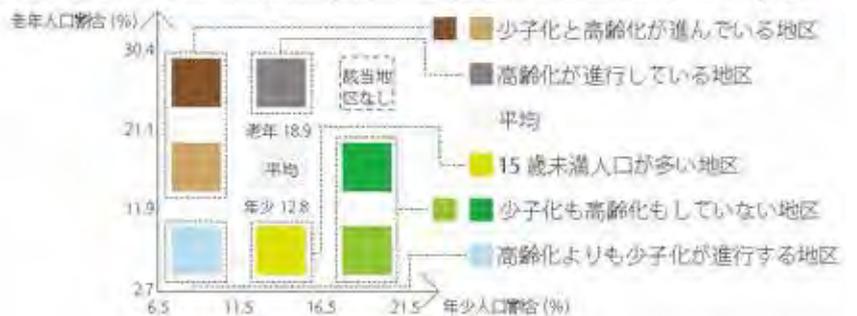


- 人口と世帯
- 年齢別人口
- 定住する理由
- 住宅概況
- 地域活動
- 医療
- 福祉と教育
- 防災
- 自然と公園
- 生活利便
- 交通
- 産業

平均年齢 (登録者数 2016年9月住民基本台帳人口)



年少人口と老年人口の指数



※ 1) 住民基本台帳人口 2016年9月値。

人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

防災

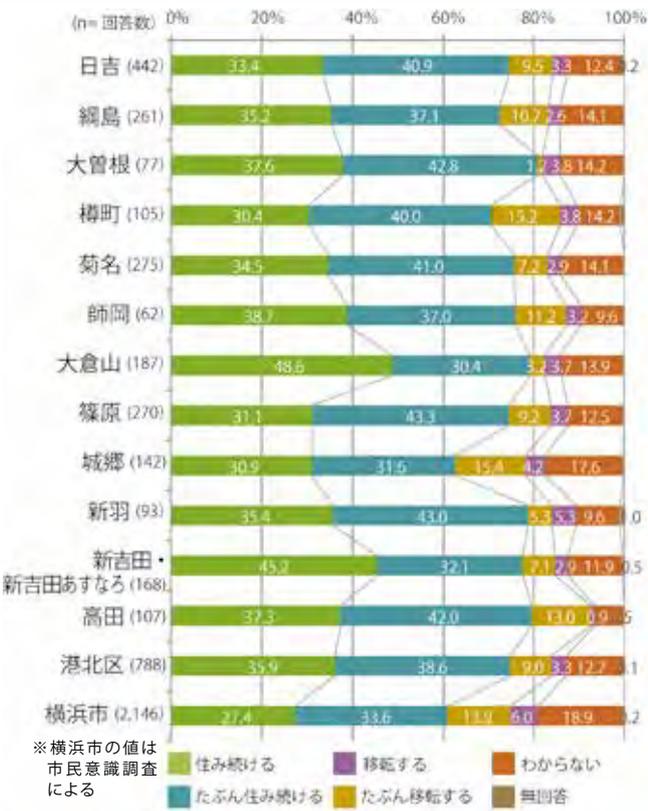
自然と公園

生活利便

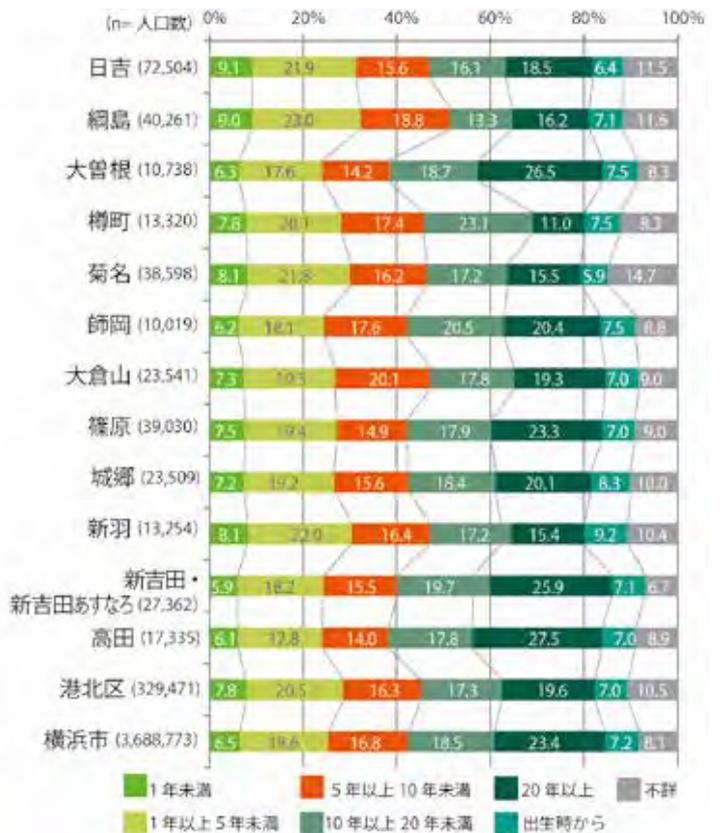
交通

産業

定住意向 (2016 区民意識調査)

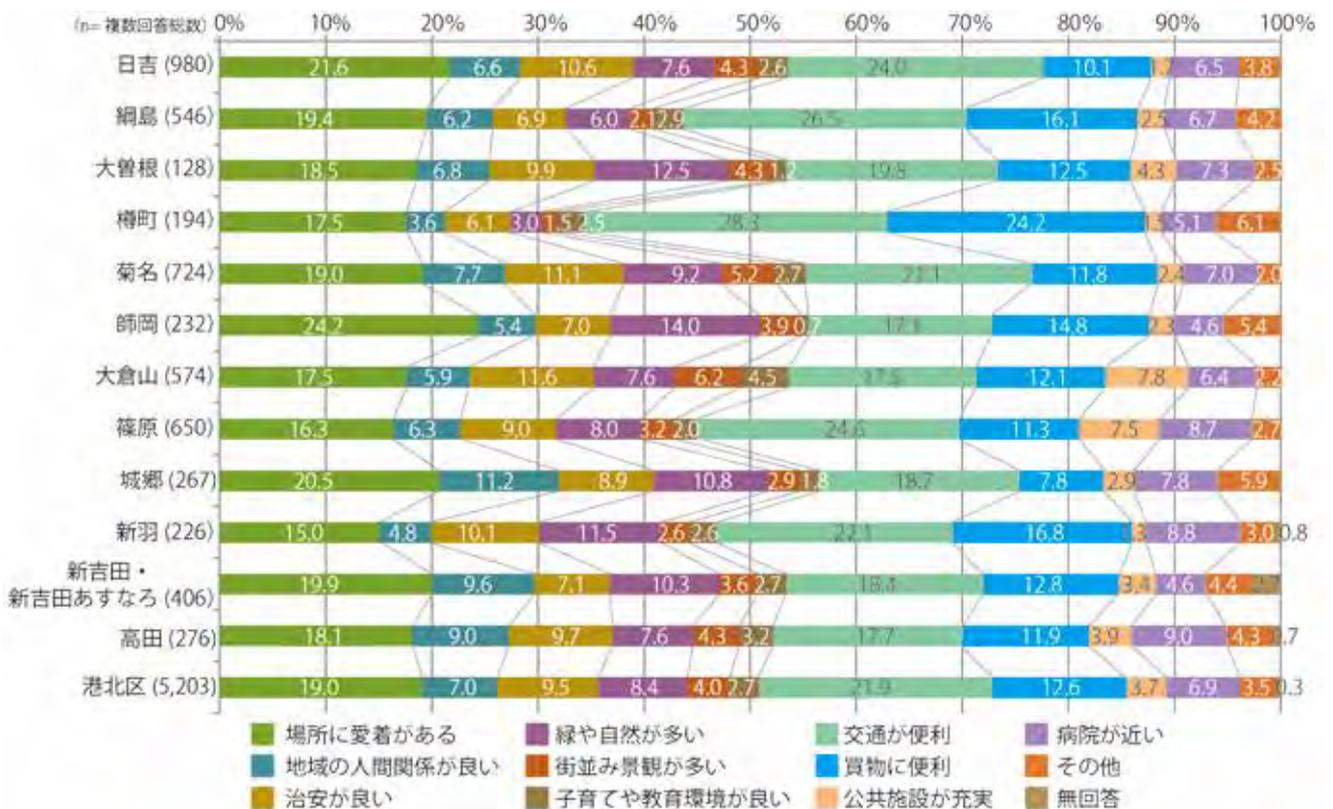


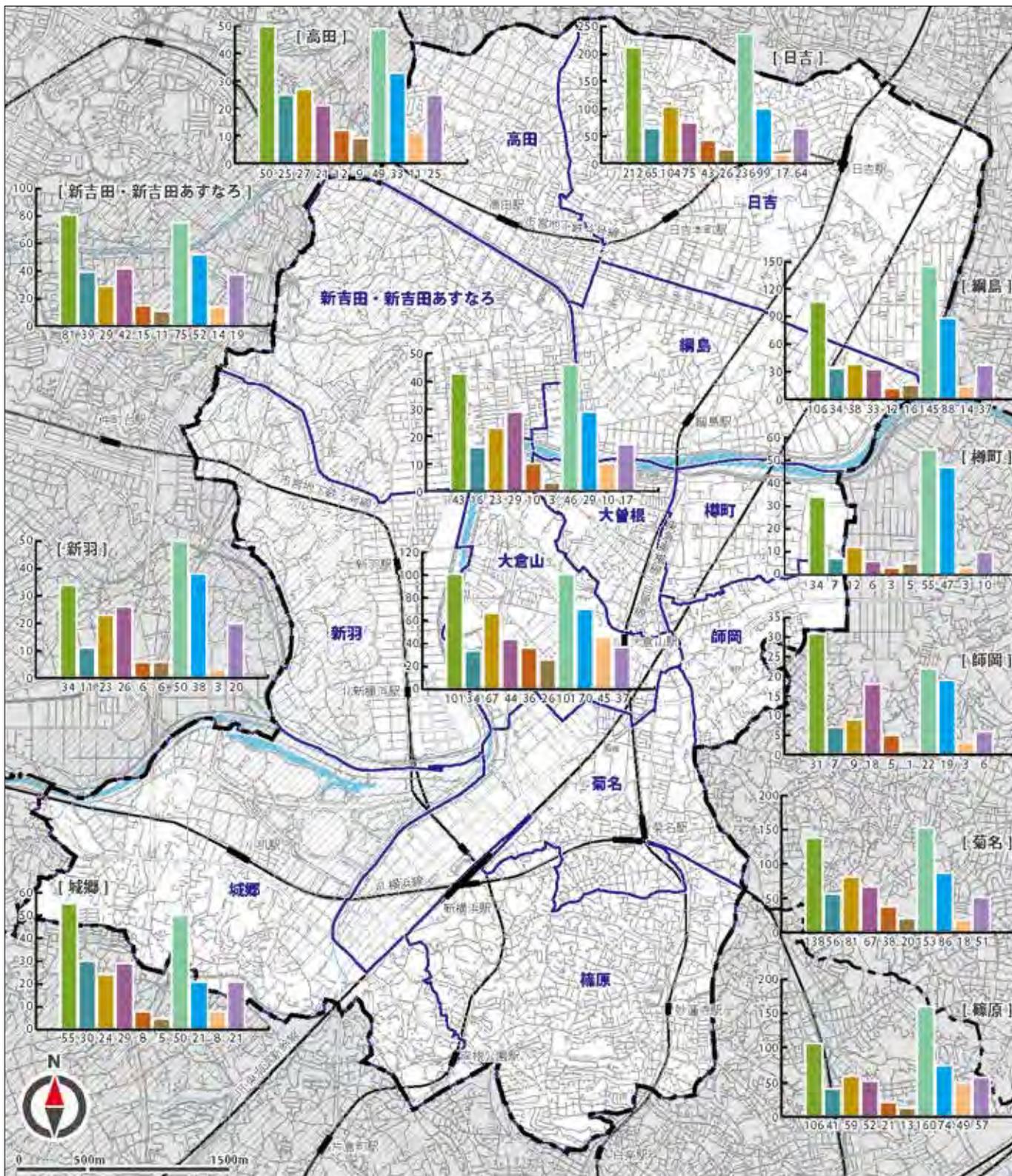
居住年数 (2010 国勢調査)



港北区では、定住年数が5年未満の区民が最も多い(上右図)ですが、区民意識調査による区民の定住意向は、74.5%と高く(上左図)、特に大曽根、大倉山、新羽、高田地区では定住意向が約8割と高くなっています。「場所に愛着がある」ことや「交通が便利」なことが住み続ける理由のベスト2位に挙げられています。ベスト3位の理由は、地区ごとにバラつきがあり(下図)、住む環境によって評価軸が異なります(右頁図)。

住み続ける理由 (2016 区民意識調査)



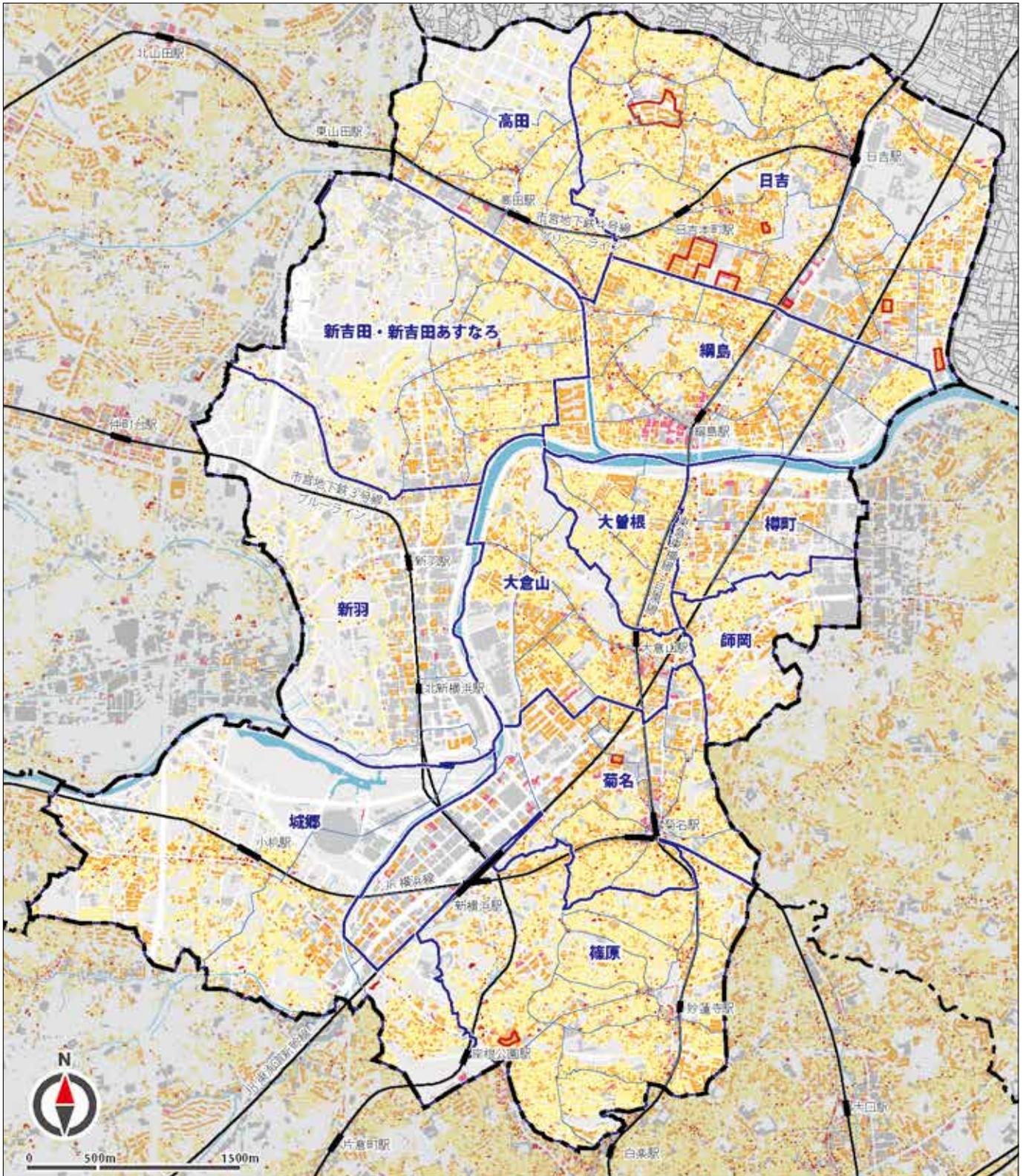


住み続ける理由

※上図内棒グラフの凡例は右図を参照のこと。



※ 2016 区民意識調査による



住宅概況

住宅の種類

■ 戸建住宅

■ 集合住宅

■ 店舗併用戸建住宅

■ 店舗併用集合住宅

■ その他の建物

□ 公的住宅

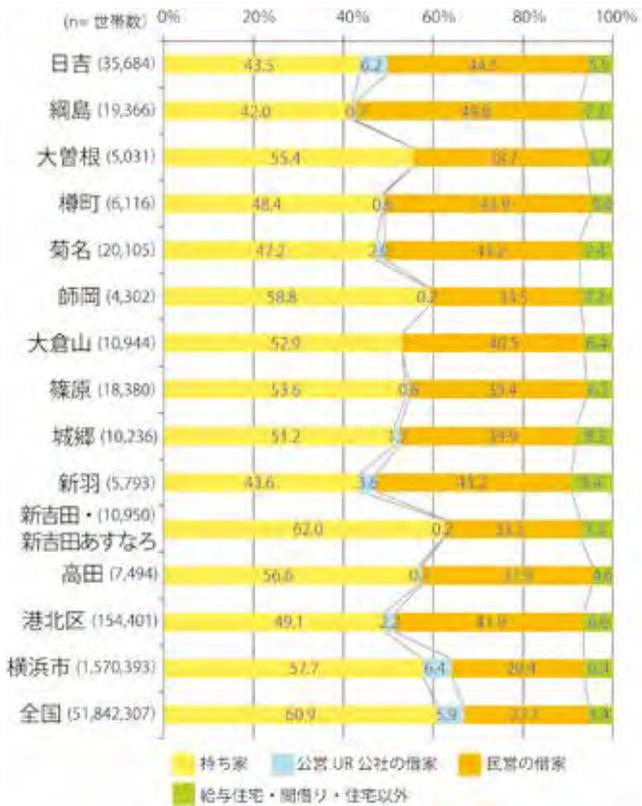
※ 1) 住宅種別は、平成 20 年都市計画基礎調査による。

※ 2) 市内道路線形は、平成 20 年都市計画基礎調査による。

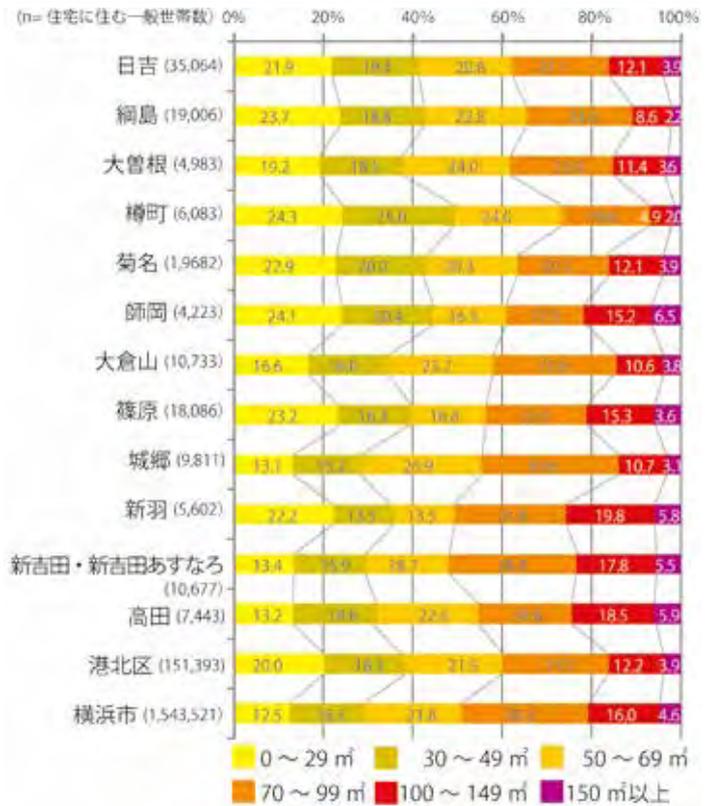
※ 3) 市営住宅は平成 28 年 6 月現在の横浜市営住宅一覧（建築局）、県営住宅は平成 28 年 8 月現在の県営住宅一覧（神奈川県県土整備局）による。

※ 4) 基盤地図情報 2016 年 7 月現在。

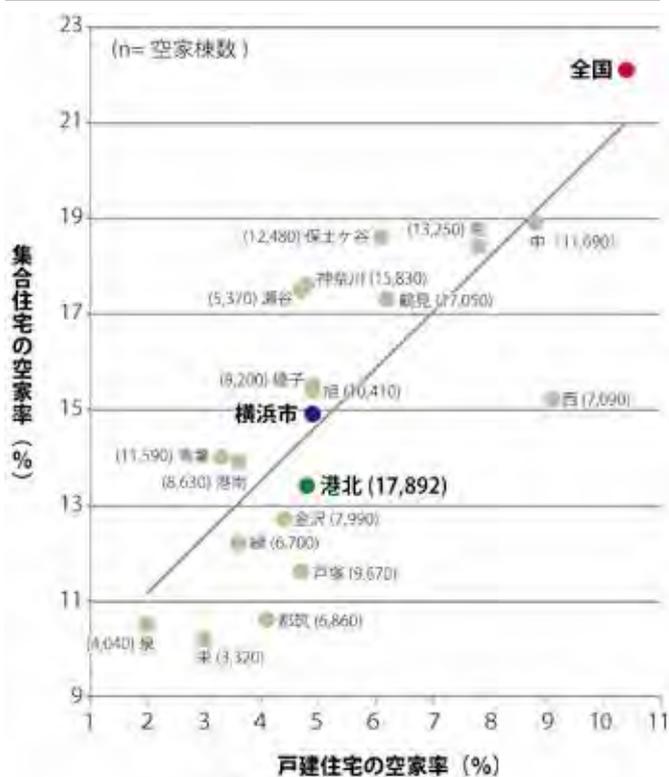
住宅のタイプ (2010 国勢調査)



住宅規模 (2010 国勢調査)



戸建住宅と集合住宅の空家率 (2013 年住宅土地統計)



港北区は、全市的にみても民営の借家に住む世帯割合が42.0%と高く、全市値29.9%を大きく上回っています(上左図)。特に綱島、樽町、日吉、新羽、菊名地区の民営借家に住む世帯割合が高く、一方で師岡、新吉田・新吉田あすなろ地区は、持家世帯割合が58%を超えるなど全市値に近くなっています。

住宅規模は、70㎡/世帯未満の世帯が多く(上右図)なっています。

空家率は戸建住宅、集合住宅共に全市値と全国値を下回って(下図)います。

人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

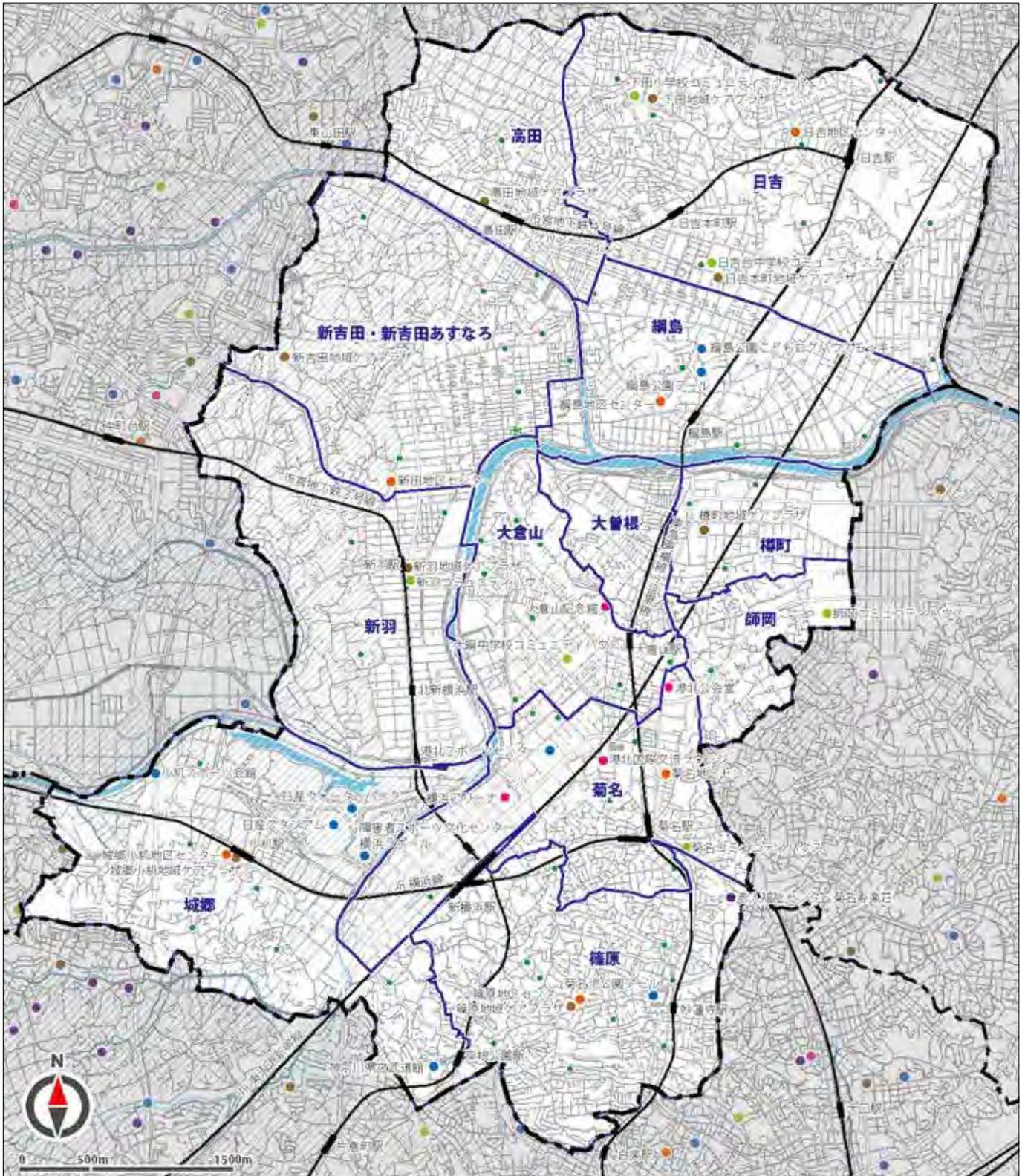
防災

自然と公園

生活利便

交通

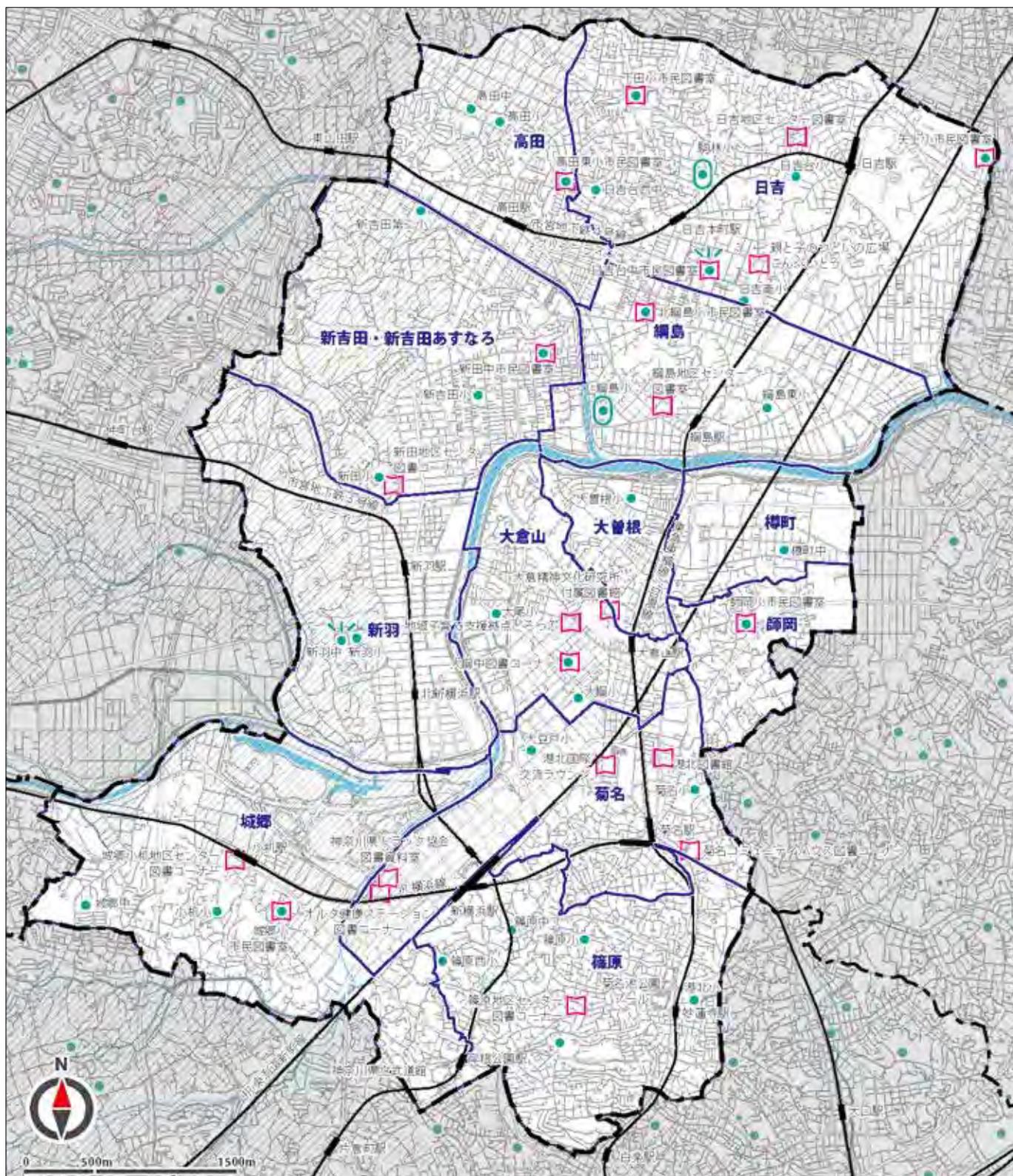
産業



文化・コミュニティ施設の分布

- 地区センター
- 文化施設
- 高齢者福祉施設
- コミュニティハウス
- スポーツ施設
- 自治会館町内会館
- 地域ケアプラザ

※1) 施設分布は 2014 年現在の区民生活マップ web 版 (よこはまっぷ) データによる。
 ※2) 基盤地図情報 2016 年 7 月現在。



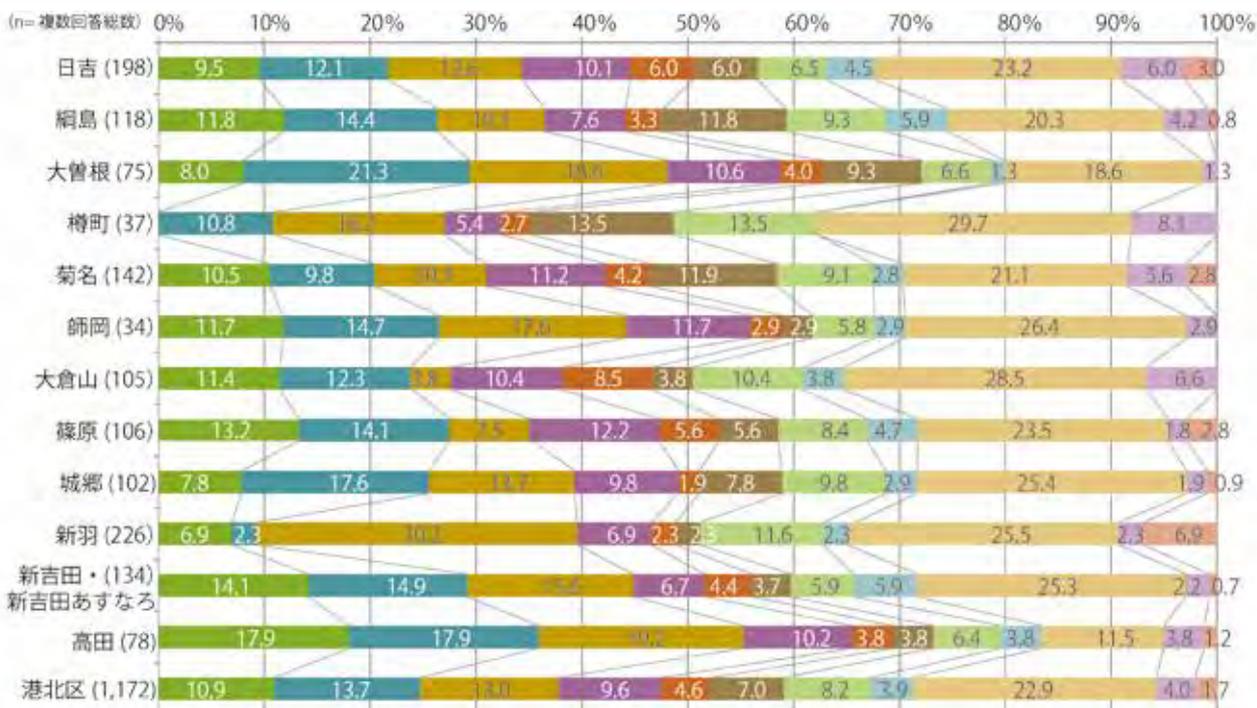
学校開放の状況

- 図書貸出施設（一部、利用制限あり）
- 小中学校の特別教室開放
- 小中学校（校庭・体育館開放）
- ✦ 校庭夜間照明

※ 1) 学校開放状況は、平成 28 年 10 月現在。

※ 2) 基盤地図情報 2016 年 7 月現在。

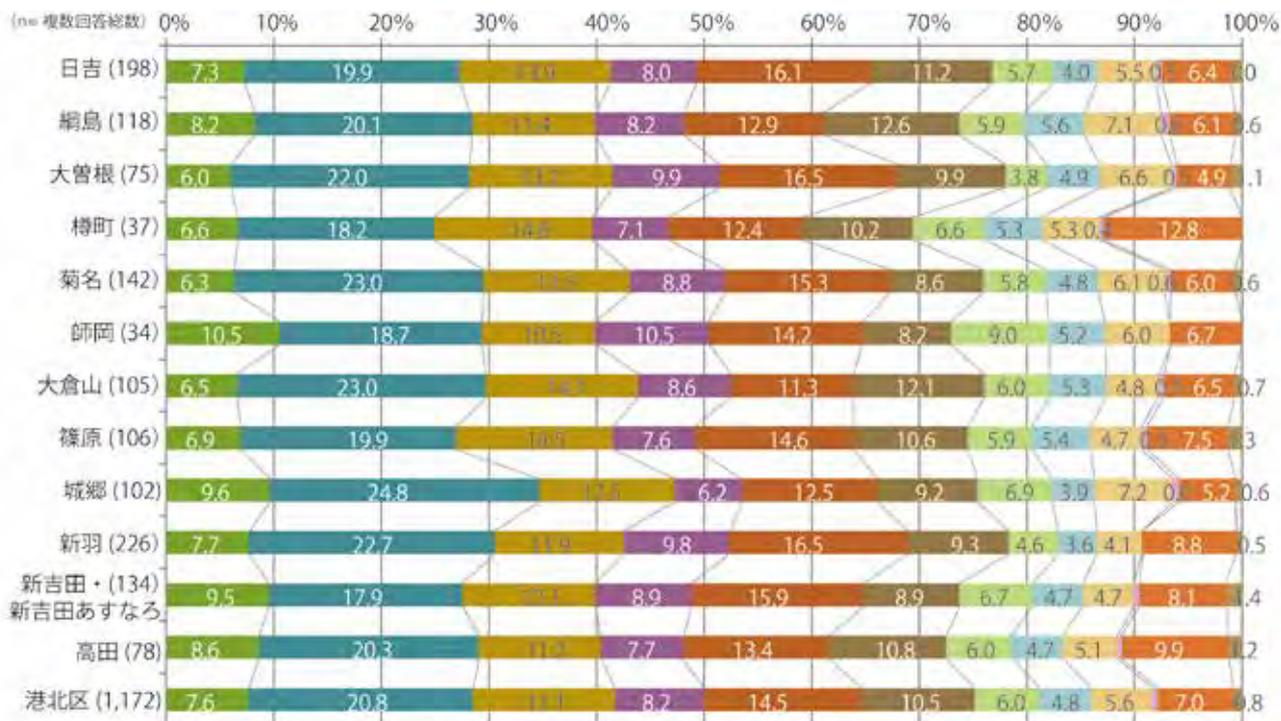
参加している地域活動 (2016 区民意識調査)



参加している地域活動の内容は、地区毎に異なり（上図）、地域イベントや美化・緑化・環境整備活動、防犯・交通安全活動等に参加経験のある方が多くいらっしゃいます。

力を入れて欲しい地域活動としては、地区毎に大きな違いはなく（下図）、防犯・交通安全活動や高齢者・障害者の福祉支援、美化・緑化環境整備活動の他に子育てや青少年健全育成などがあげられています。

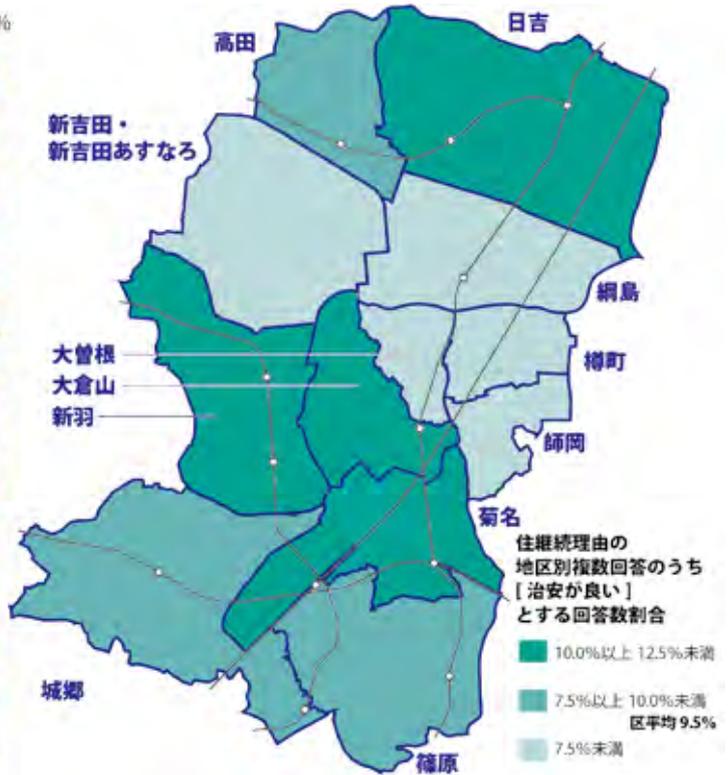
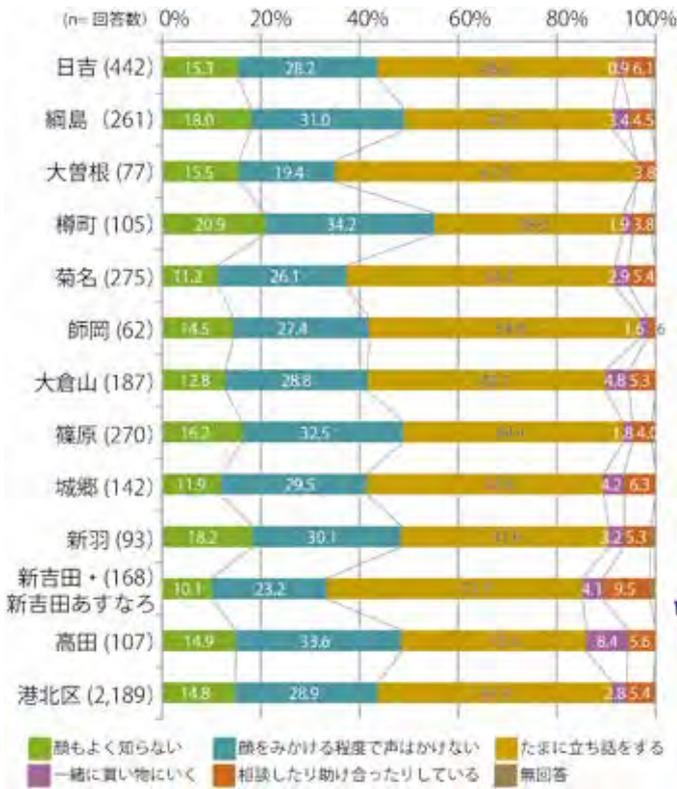
力を入れて欲しい地域活動 (2016 区民意識調査)



力を入れて欲しい地域活動としては、地区毎に大きな違いはなく（下図）、防犯・交通安全活動や高齢者・障害者の福祉支援、美化・緑化環境整備活動の他に子育てや青少年健全育成などがあげられています。

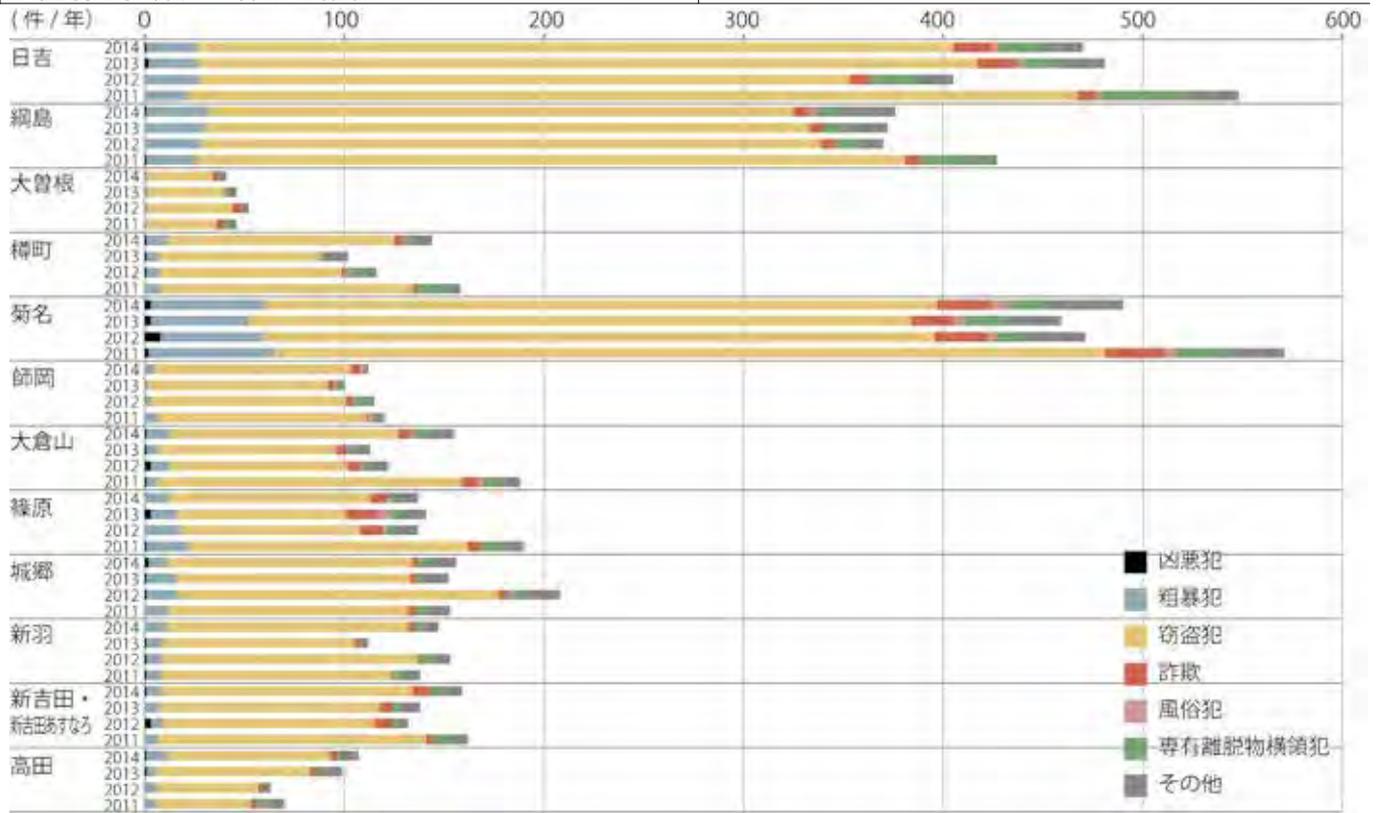
近所とのつながり (2016 区民意識調査)

住み続ける理由 治安がよい (2016 区民意識調査)



区民意識調査によると、ご近所とのつながりは「たまに立ち話をする」方が大曽根地区（上左図）で約6割と最も多いです。住み続ける理由として、「治安がよいこと」をあげられている方が、日吉、大倉山、新羽、菊名地区（上右図）で多くいらっしゃいます。区内の犯罪発生件数は、増減を繰り返しながら減少傾向の地区（日吉、綱島、菊名、篠原）と平衡を保つ地区（大曽根、師岡、城郷、新羽、新吉田・新吉田あすなろ）にわかれますが、高田地区はやや増加傾向（下図）にあります。どの地区も内訳は、窃盗犯（うち自転車盗難）が多くを占めます。

地区別の犯罪発生件数の推移 (2016 港北警察署提供資料より)



人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

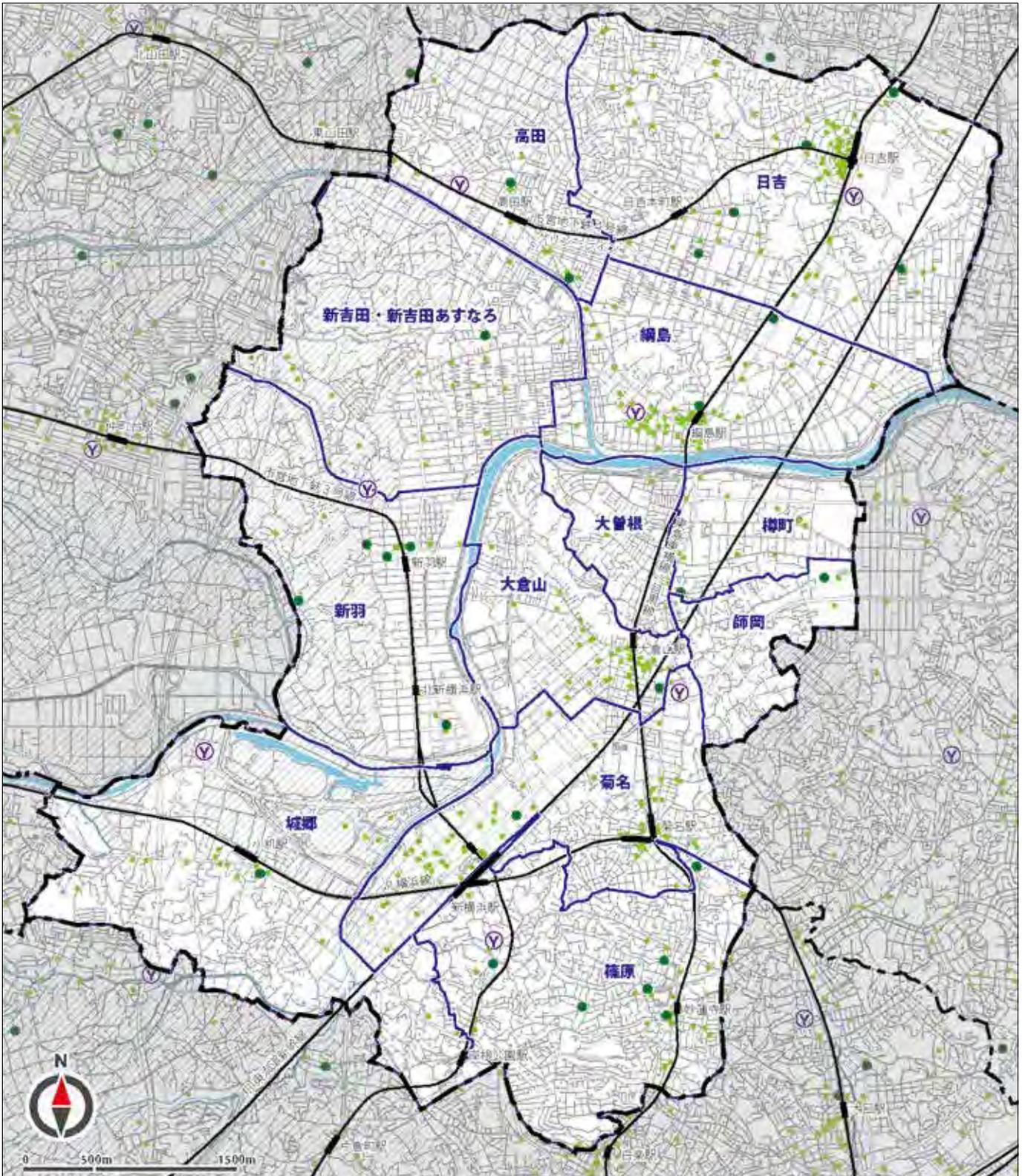
防災

自然と公園

生活利便

交通

産業



医療施設の分布

医療機関

- 内科と外科を併設
- その他の医療機関
- Ⓨ 救急車の出動拠点（消防署・消防出張所）

※ 1) 医療機関は平成 22 年と平成 26 年現在の国土数値情報による。

※ 2) 基盤地図情報 2016 年 7 月現在。

住み続ける理由 病院が近くにある (2016 区民意識調査)



医療施設は、特に鉄道駅周辺に集中して分布しています。

区民意識調査では、「病院が近いこと」を住み続けている理由として挙げている人の割合が多い地区が、高田、新羽、城郷、篠原地区（左図）となっています。

また、充実すべき公共サービスとして、34項目中「病院や救急医療など地域医療」は、10番目に多い回答となっており、特に大曾根、師岡地区（下図）では、回答割合が高くなっています。

充実すべき公共サービス 病院や救急医療など地域医療 (2016 区民意識調査)



人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

防災

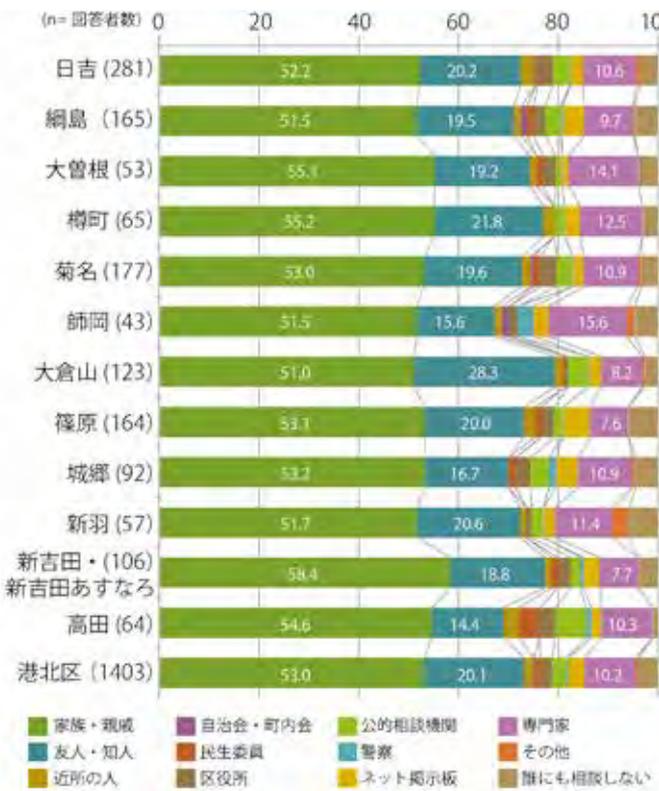
自然と公園

生活利便

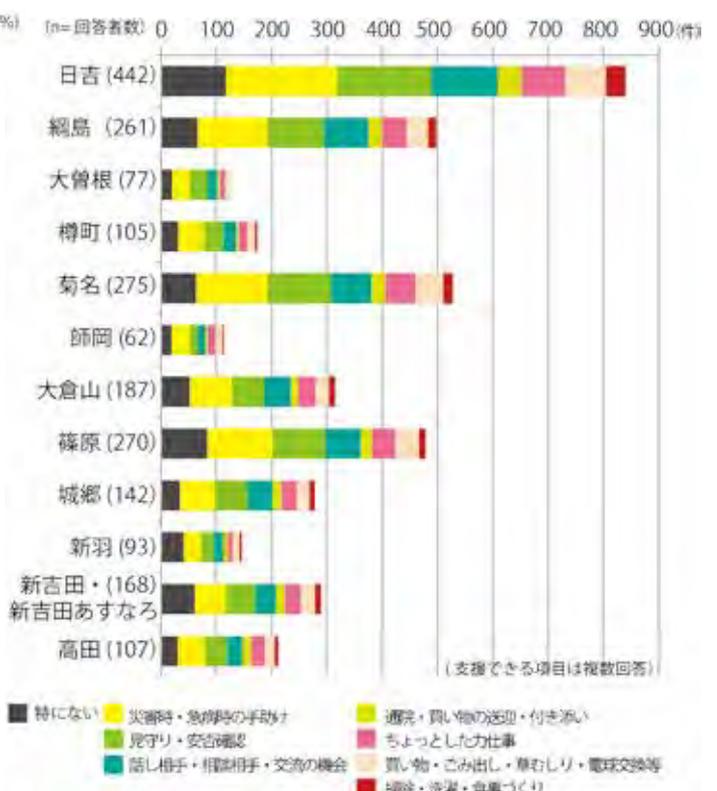
交通

産業

自分の病気や老後の相談先 (2016 区民意識調査)



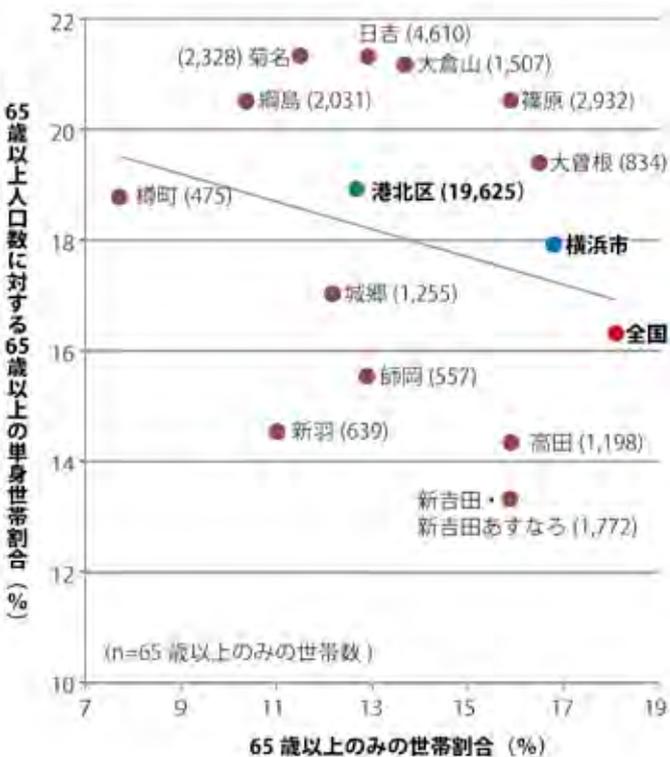
自分が高齢者などにしてあげられる支援 (2016 区民意識調査)



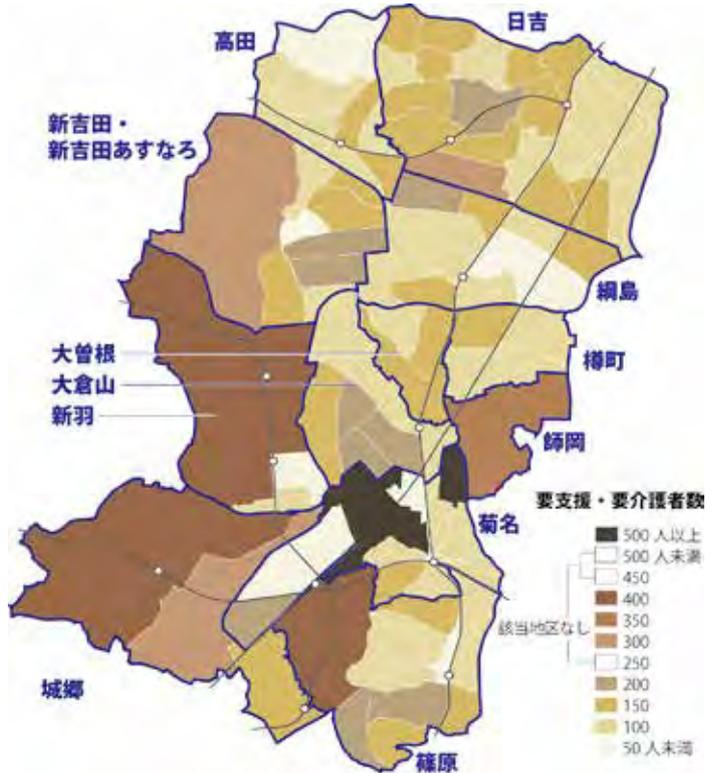
区民意識調査によると自分の病気や老後について心配事や困り事のある方の相談先に「家族・親戚」の次に「友人・知人」をあげる方が 15～28%程度（上左図）おられます。自分が高齢者などにしてあげられる支援としては「災害時・急病時の手助け」と「見守り・安否確認」をあげられる方が多い（上右図）です。

港北区は全市的に見ても全国的に見ても 65 歳以上のみの世帯割合に対して、単身世帯が多い（下左図）ことが特徴的です。特に、日吉、綱島、菊名、大倉山、篠原地区では、65 歳以上の人口数に対して 2 割以上の方が単身世帯で暮らしておられます。要介護者数は、区西部と南部地区の一部に多い地区（下右図）があります。

高齢者の暮らし方 (2010 国勢調査)



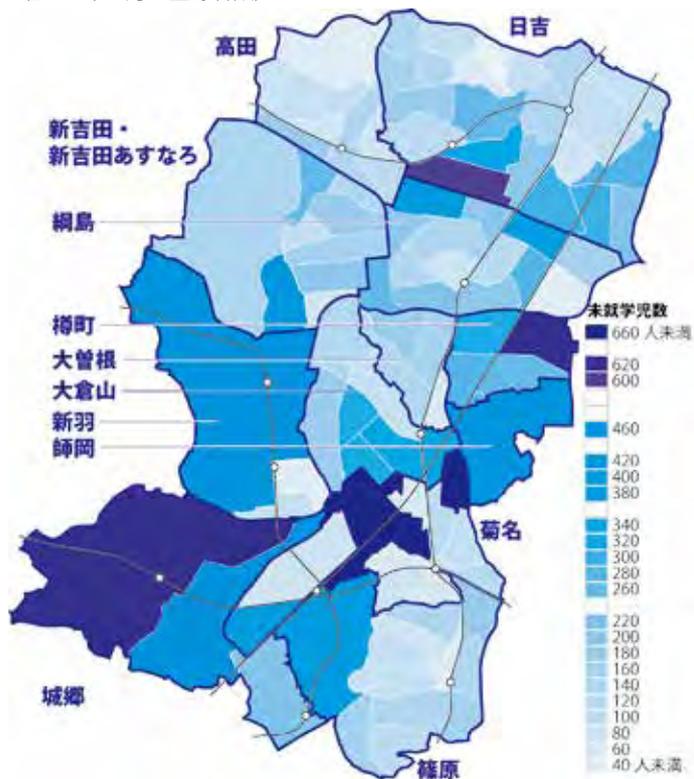
要介護者数 (平成 29 年 1 月現在 健康福祉局)



人口と世帯
年齢別人口
定住する理由
住宅概況
地域活動
医療
福祉と教育
防災
自然と公園
生活利便
交通
産業

未就学児(0～5歳人口)の人口数

(2016年9月の登録者数)

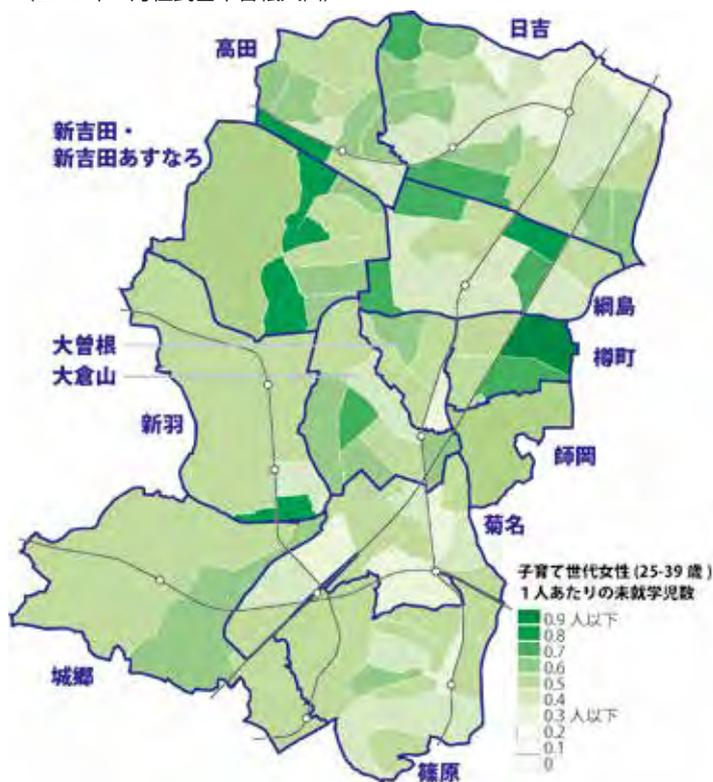


未就学児の人口数は町丁毎に差があり、日吉本町四丁目、樽町三丁目、大豆戸町、小机町とその周辺の町丁に集中(左図)しています。

主な子育て世代の女性人口あたりの未就学児数では0.7～0.9人/人の地区が日吉、高田、網島、樽町、新吉田・新吉田あすなろ地区内にあり(下図)、兄弟のいる世帯が区北部に集中して分布していることがわかります。

主な子育て世代(25-39歳)の女性人口あたりの未就学児数

(2016年9月住民基本台帳人口)



人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

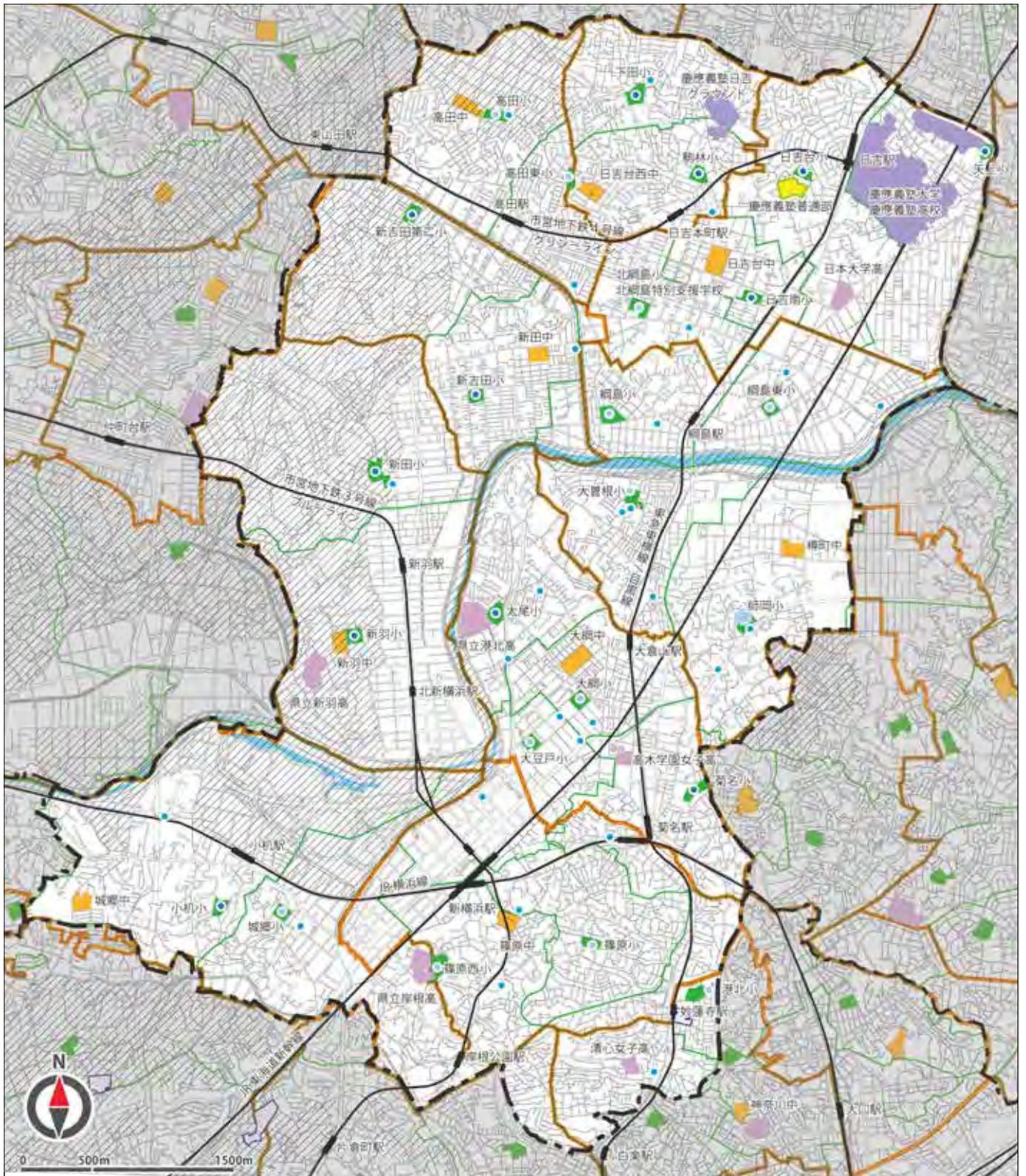
防災

自然と公園

生活利便

交通

産業



学童施設等の分布

学童保育（2016年）

- ・ 放課後児童クラブ（27カ所）
- ・ はまっこふれあいスクール（12カ所）
- ・ はまっこふれあいスクール19時まで（1カ所）
- ・ 放課後キッズクラブ（12カ所）

小中学校等

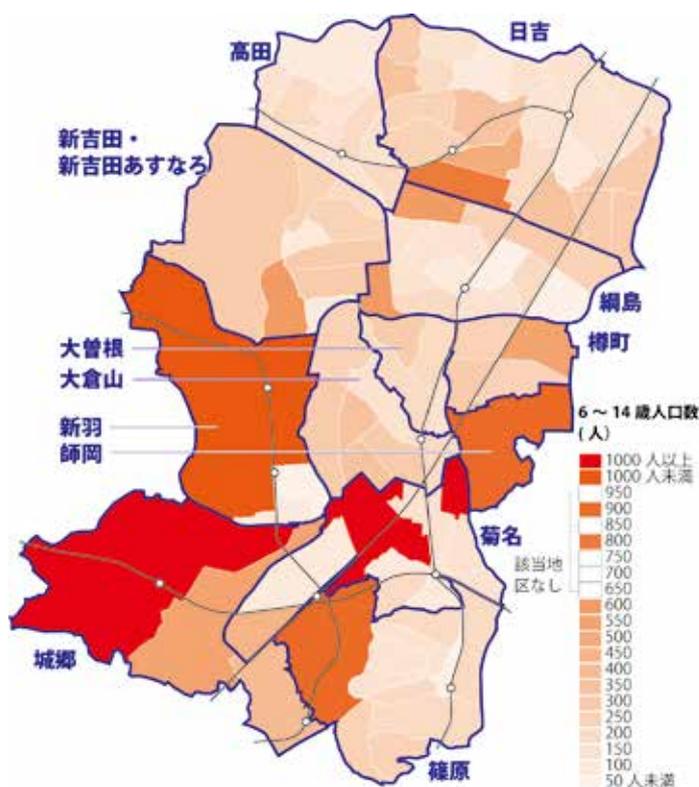
- 市立小学校
市立小学校区
- 市立中学校
市立中学校区
- 高等学校
- 大学

※1）平成28年度こども青少年局資料より。

※2）小学校区は平成22年度、中学校区は平成25年度国土数値情報より。

※3）基盤地図情報2016年7月現在。

6歳-14歳の人口数 (2016年9月住民基本台帳人口)



6歳から14歳の小中学校に通う児童・生徒数は、町丁毎に差があり、日吉本町四丁目、樽町三丁目、大豆戸町、小机町とその周辺の町丁に集中(左図)しています。この分布は、未就学児数の分布と同様の傾向(20頁)にあります。

港北区内の15歳未満の年少人口数は、大きな変動もなく安定的に推移することが見込まれています。(5頁)

区民意識調査によると、住み続ける理由として「子育てや教育環境が良い」とする回答割合が平均値を大きく上回っているのが大倉山地区のみとなっています。

近年、学童保育のニーズも高まりつつありますが、区内の学童保育所は、小学校区内に未整備の地区もあります。

住み続ける理由 子育てや教育環境が良い (2016区民意識調査)



人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

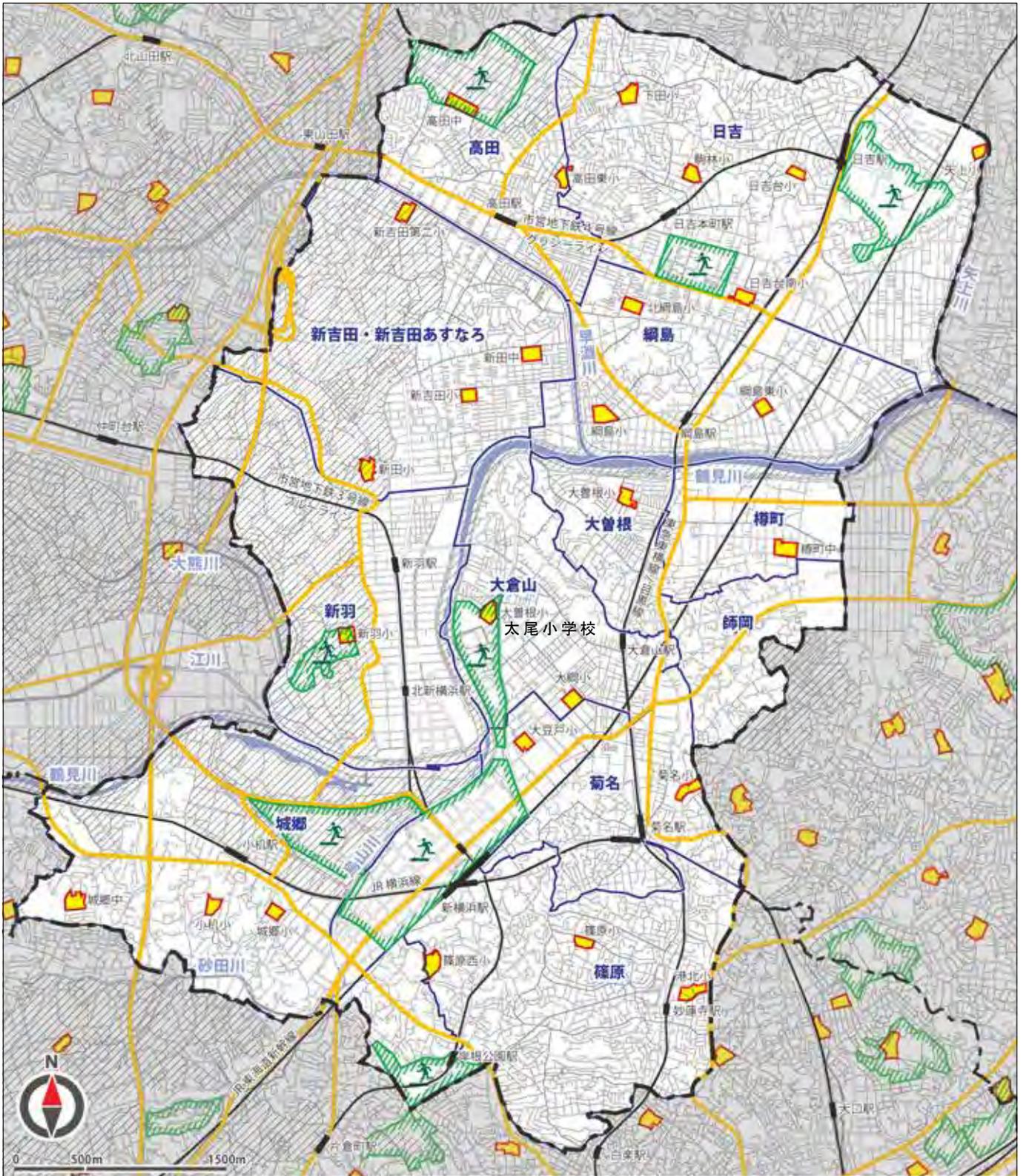
防災

自然と公園

生活利便

交通

産業

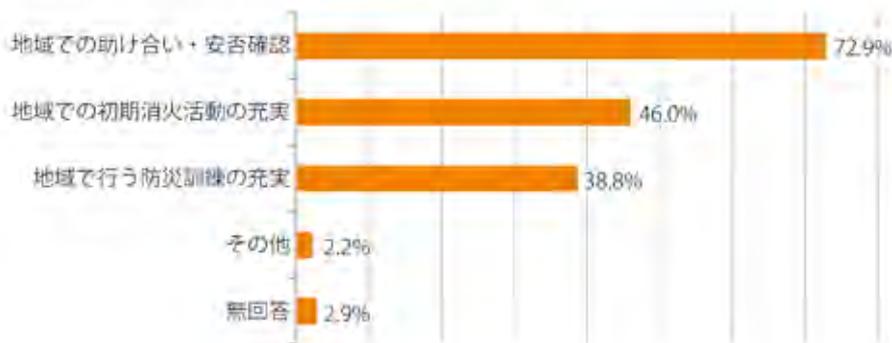


地域防災拠点と広域避難場所

- 緊急輸送路
- 地域防災拠点
- ▨ 広域避難場所
- 河川

※ 1) 地域防災拠点、広域避難場所、緊急輸送路はわいわい防災アップGISデータより。
 ※ 2) 基盤地図情報 2016年7月現在。

●地域の自治会町内会などで必要な防災対策 (2016 区民意識調査 n=2215 回答者数)



自治会町内会などで必要な防災への取組は「地域での助け合い・安否確認 (73%)」が最も多く、これに「地域での初期消火活動の充実 (46%)」、「地域で行う防災訓練の充実 (39%)」が続きます。

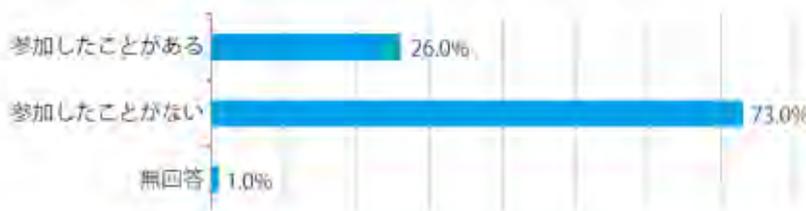
●地域防災拠点の場所・役割の認知状況 (2016 区民意識調査 n=2215 回答者数)



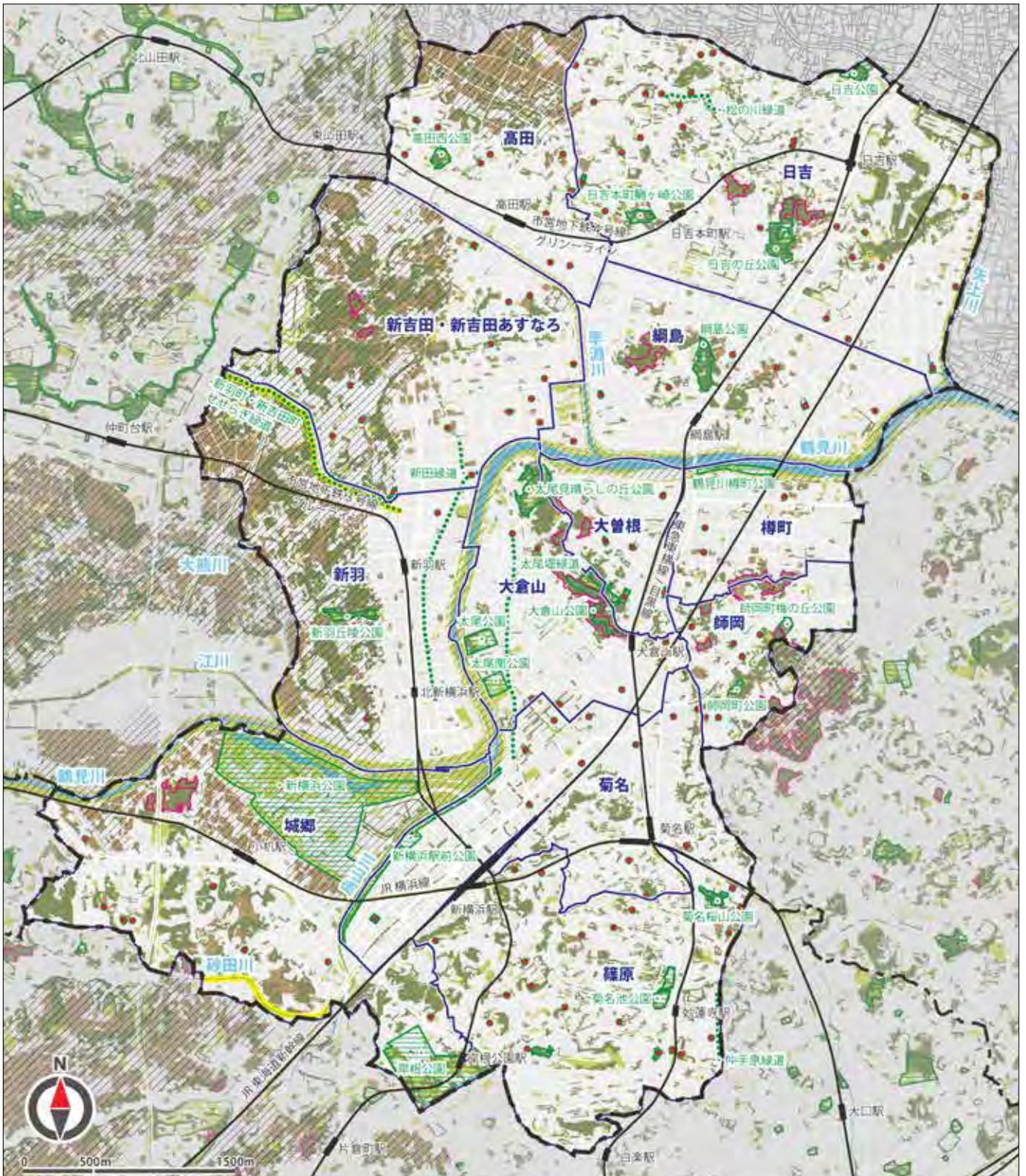
地域防災拠点について「場所は知っているが役割は知らない (40%)」が最も多く、これに「場所・役割ともに知っている (28%)」が続きます。認知率をみると「※場所認知あり計 (68%)」で「※役割認知あり計 (36%)」を上回っています。

※地域防災拠点とは、区内 28 カ所の市立の小・中学校のことで、大規模な地震が発生し、住宅の倒壊または火災の危険性があるときに、地域住民が避難し、一定期間生活する場所です。

●地域防災拠点訓練の参加経験 (2016 区民意識調査 n=2215 回答者数)



地域防災拠点訓練への参加経験の有無は「参加したことがない (73%)」が「参加したことがある (26%)」の3倍強となっています。



緑被と公園等の分布

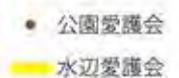
緑被等の状況



自然的土地利用



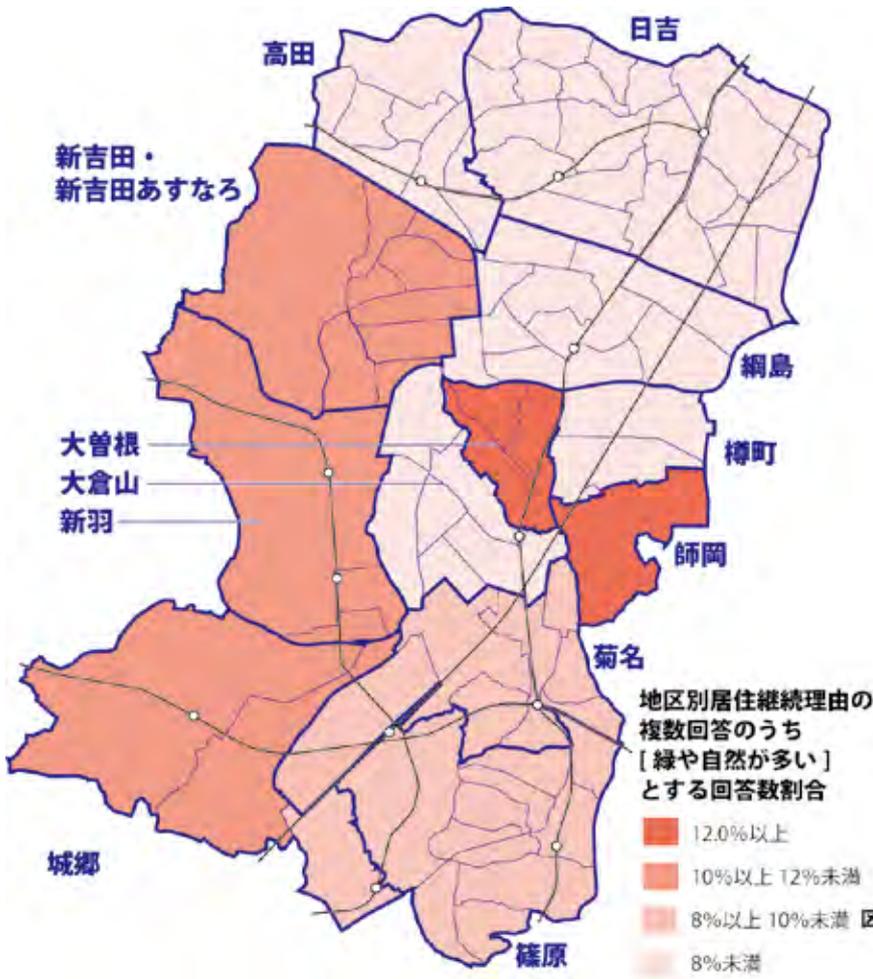
市民活動



※名称は主な公園と緑道

- ※1) 緑被は平成26年第10次緑地環境診断調査より。
- ※3) 公園は平成20年の都市計画基礎調査より。
- ※4) 市街化調整区域、緑地保全地区は平成28年の都市計画決定より。
- ※5) 公園愛護会と水辺愛護会は平成28年10月現在。
- ※6) 基盤地図情報2016年7月現在。

住み続ける理由 緑や自然が多い (2016年区民意識調査)



全市値 28.8%に対し、港北区の緑被率は 25.5%となっており、緑被の分布が多い地区（左頁図）と区民意識調査による「緑や自然が多い」と回答する割合が高かった地区（左図）は、ほぼ同じ地区となっています。

区の緑被は、全市的な傾向に対して、樹林地や樹木の割合が少ないことが特徴的です（下左図）。

区民意識調査によると、緑被の量や質の多少や地区を問わず、公園、都市農業、緑の保全と緑化、水辺環境に関する緑化施策への期待があります（下右図）。

人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

防災

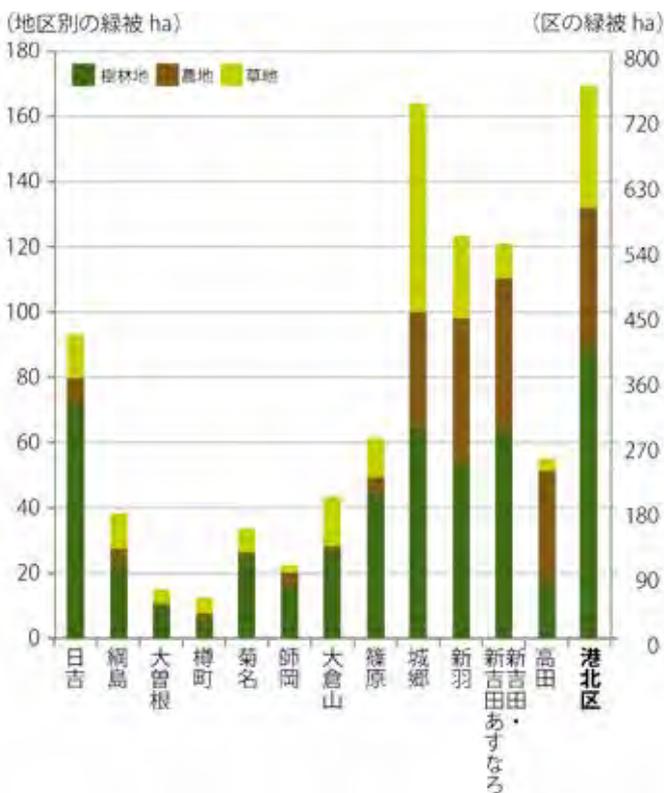
自然と公園

生活利便

交通

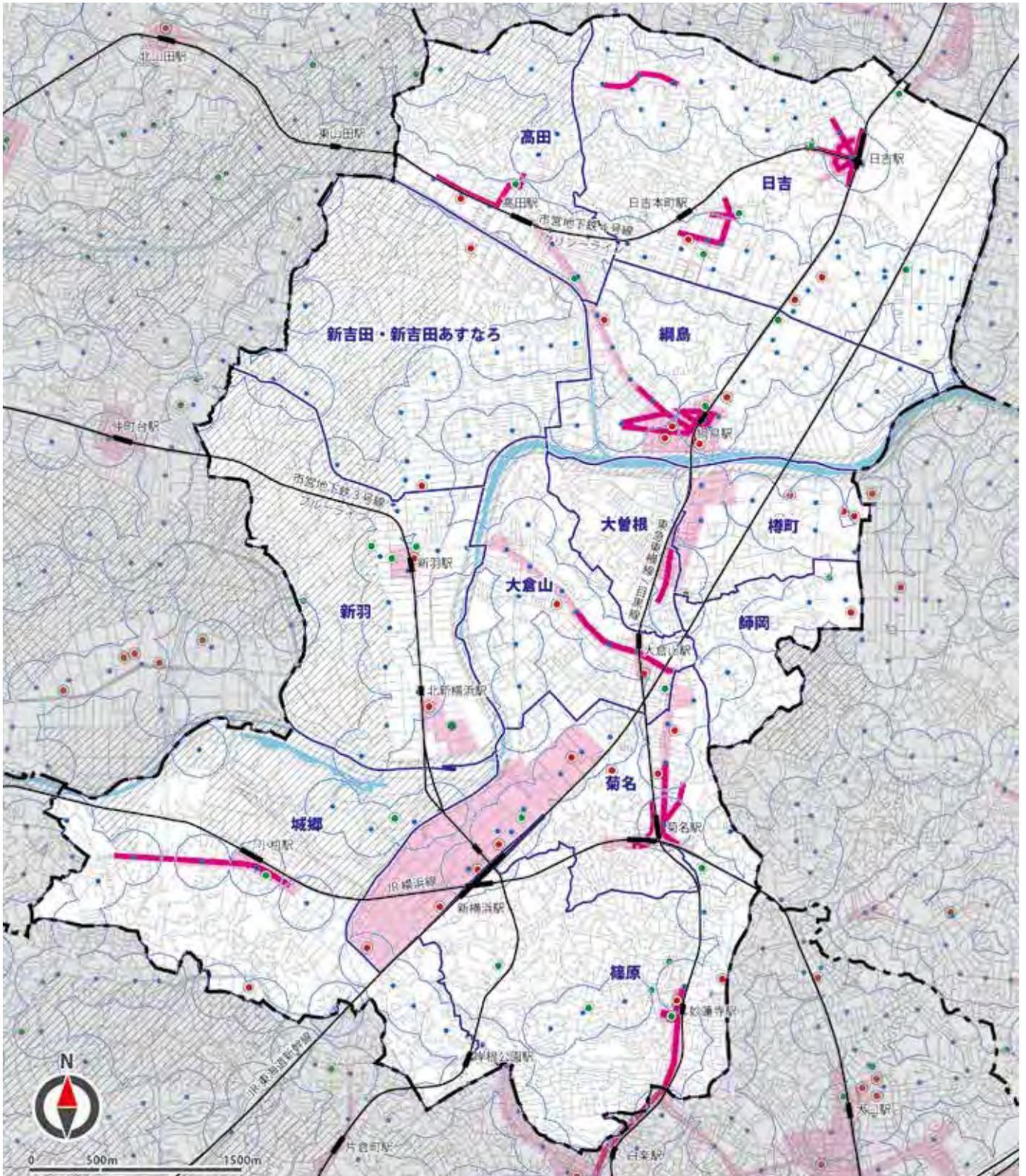
産業

地区別の緑被の内訳



充実すべき緑に関する公共サービス (2016年区民意識調査)





生活利便施設の分布

鉄道駅周辺が近隣商業地域・商業地域に指定されているため、商店街は、主に鉄道駅近くに分布しています。内科と外科を併設する医療機関も鉄道駅に集中して分布しています。大規模小売店舗は、駅から離れた地区にも広く分散して立地しています。

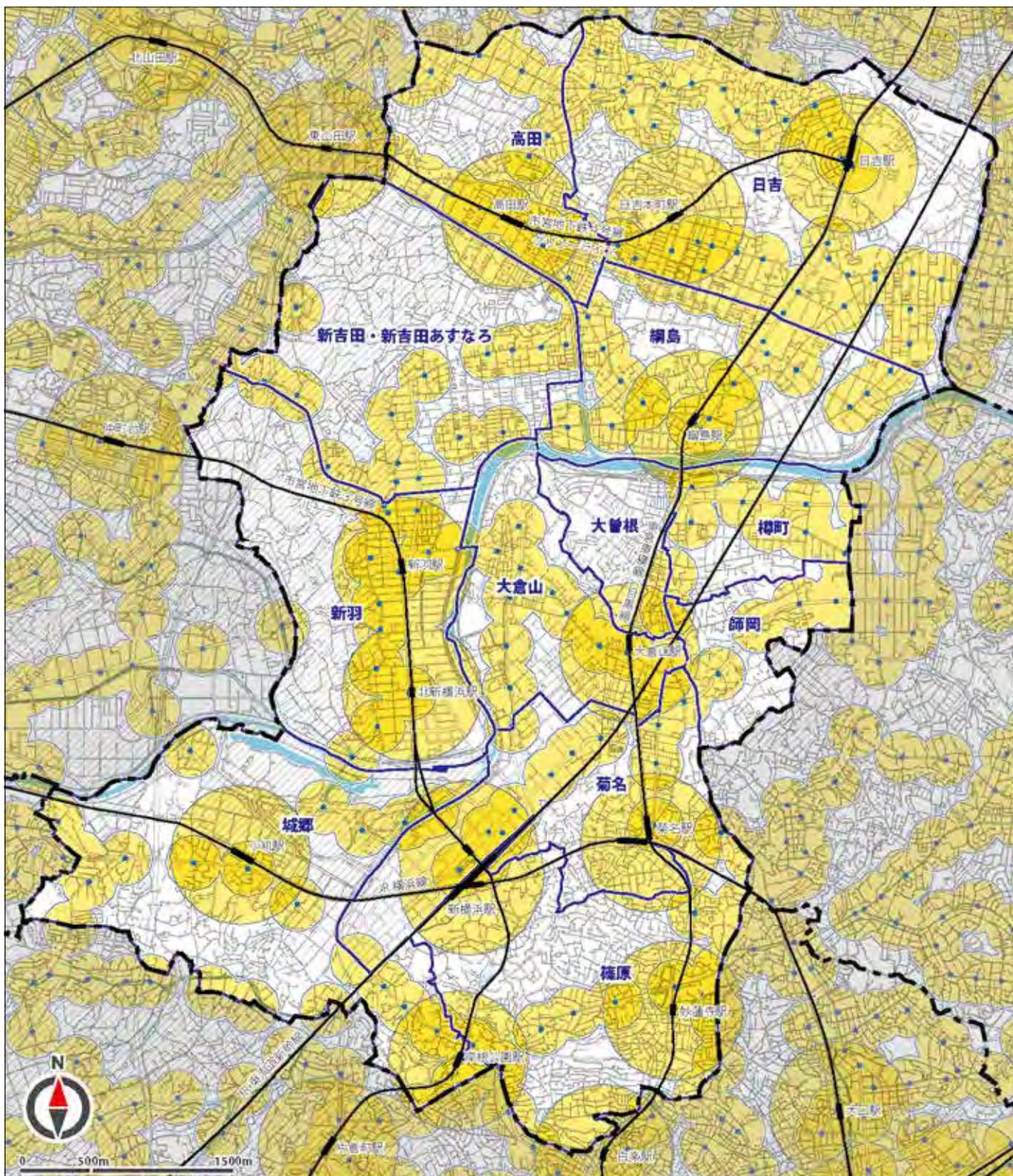
主な買物先や通院先

- 大規模小売店舗
- 商店街
- 商業地域・近隣商業地域
- 内科と外科を併設する医療施設

公共交通網

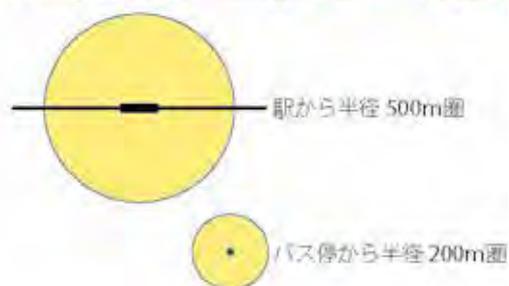
- バス停 / バス停から 200m圏
- ▨ 市街化調整区域

- ※1) 大規模小売店舗は平成27年現在の「大規模小売店舗一覧」(経済局)による。
- ※2) 商店街は平成28年10月現在の「一般社団法人横浜市商店街総連合会作成の区別商店街リスト」による。
- ※3) 医療機関は平成22年と平成26年現在の国土数値情報による。
- ※4) 高齢者福祉施設は平成23年現在の国土数値情報による。
- ※5) 基盤地図情報 2016年7月現在。



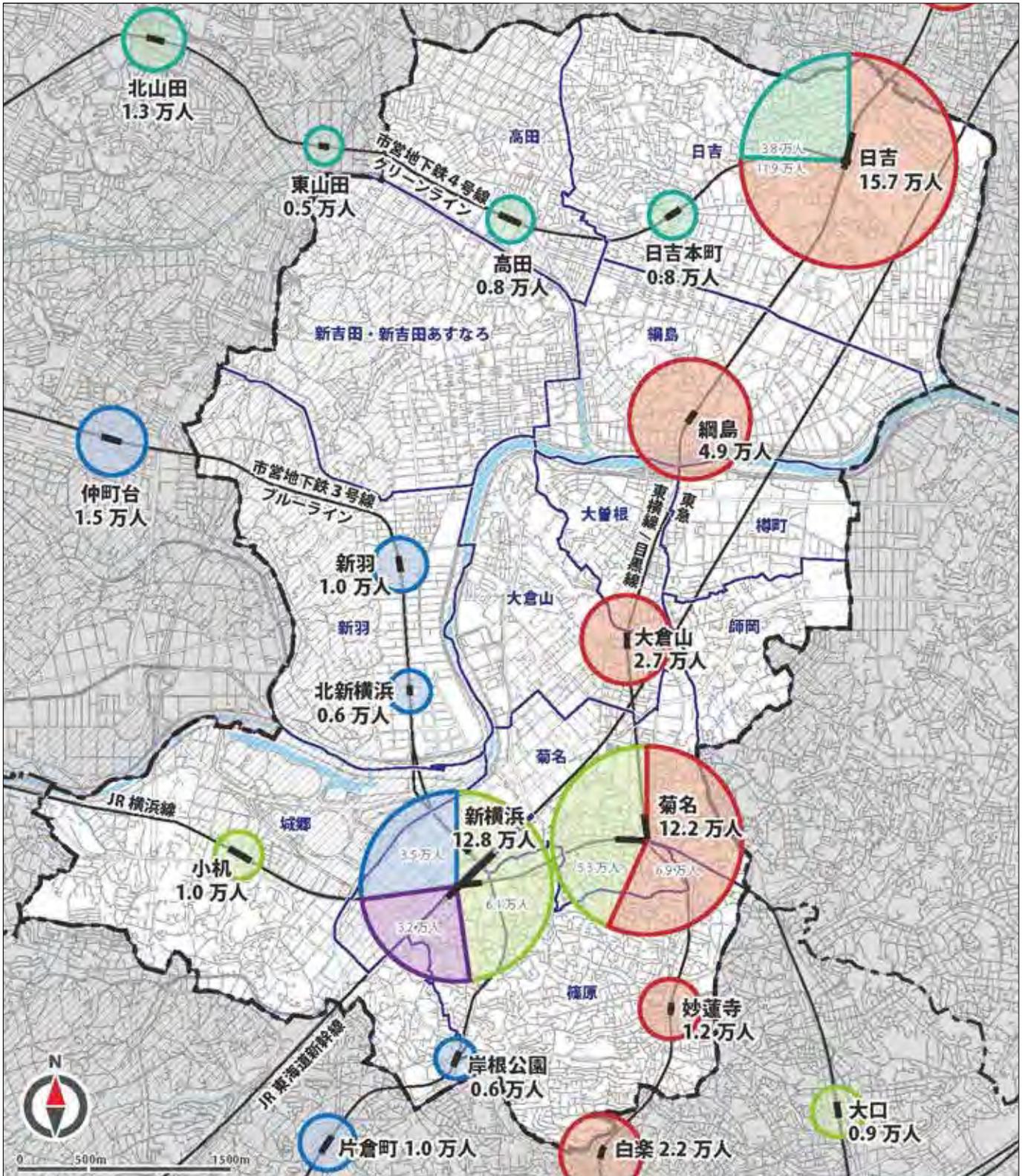
公共交通網のカバー圏

港北区の公共交通網網羅率（鉄道駅 500 m圏 + バス停 200 m圏）は、63.4%となっています。市街化区域に限ると 69.7%となります



※ 1) バス停、バスルートは平成 23 年国土数値情報による。

※ 2) 基盤地図情報 2016 年 7 月現在。



鉄道駅別一日あたりの乗車客数

駅名
一日あたりの乗車客数

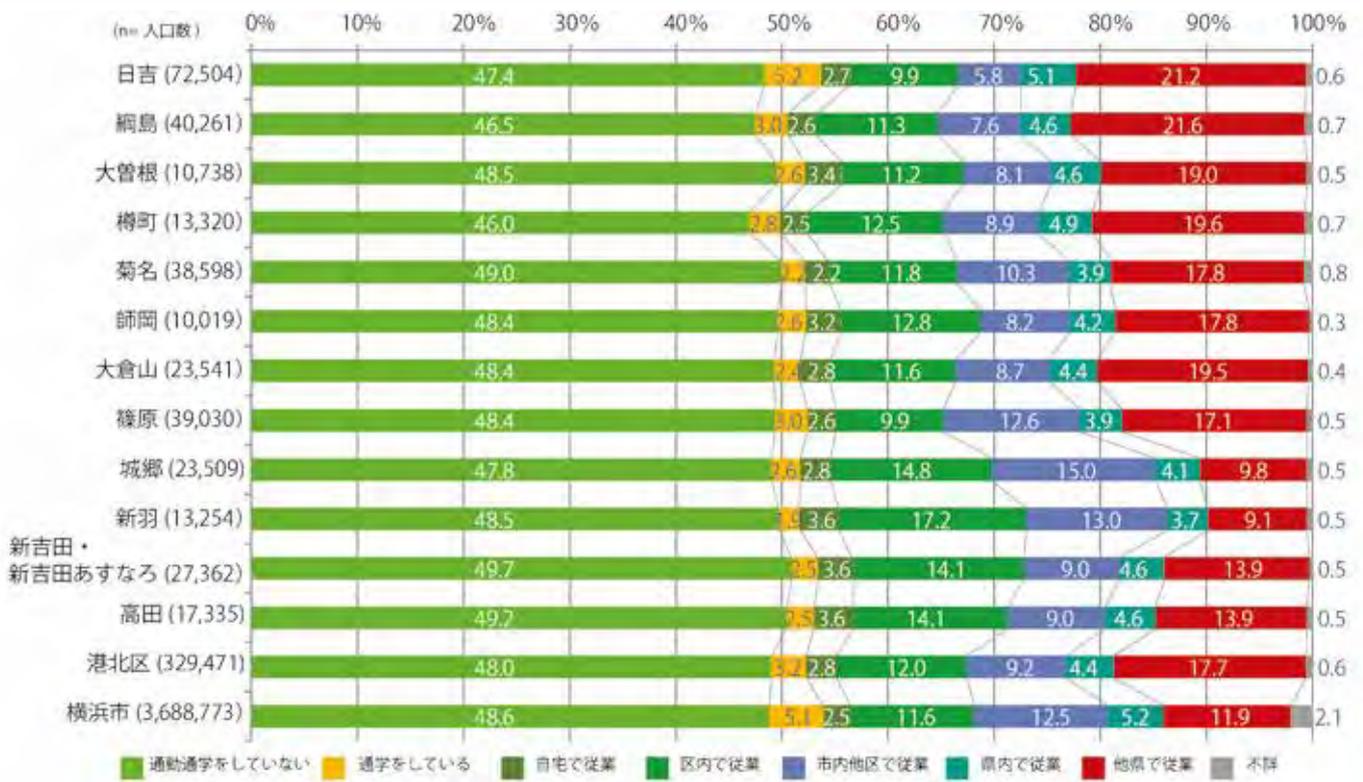
鉄道路線名

- 東急・東横線/目黒線
- 市営地下鉄3号線
- 市営地下鉄4号線
- JR横浜線
- JR東海道新幹線

※ 1) 鉄道の一日あたり乗車人員数は平成 27 年の横浜市統計書による。

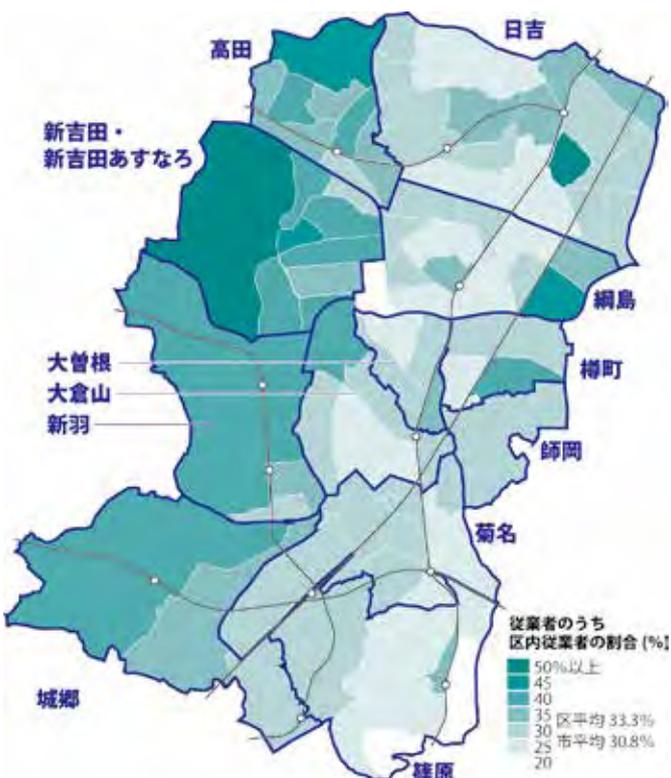
※ 2) 基盤地図情報 2016 年 7 月現在。

区民の通勤・通学の状況 (2010 国勢調査)



人口と世帯
年齢別人口
定住する理由
住宅概況
地域活動

区民の区内従業者割合 (2010 国勢調査)



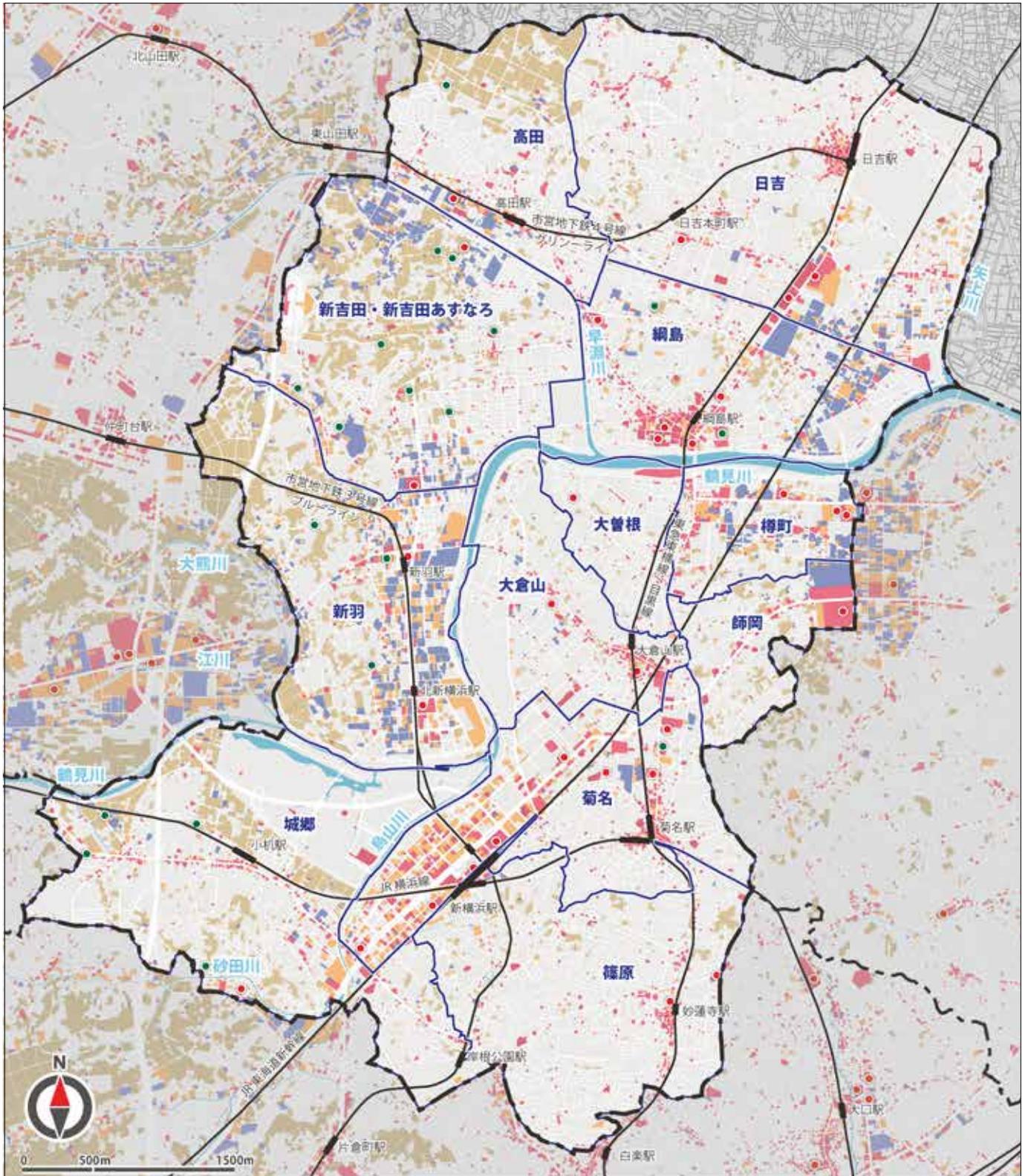
港北区民全体では、通勤通学をしていない方が約48%となっています。

区民の通勤・通学先は、他県で従業されている方の割合が高い(上図)ことが特徴的で、日吉、綱島地区で特に多いです。

一方で、区民の区内従業割合が高いのは区西部の地区に集中しており(左図)、通勤スタイルが二極化している様子が伺えます。

鉄道駅で一日の乗車客数が最も利用者数が多いのは、日吉駅(15.7万人/日)で、次いで新横浜駅(12.8万人/日)と菊名駅(12.2万人/日)となっています。

医療
福祉と教育
防災
自然と公園
生活利便
交通
産業



産業の分布

産業別の土地利用

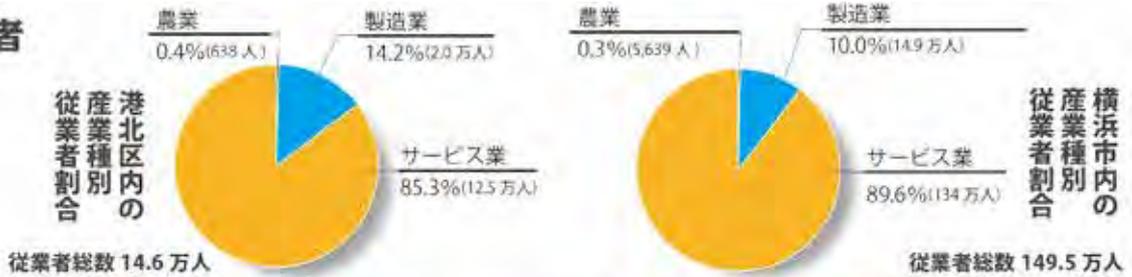
- 農地
- 工業用地
- 商業用地・店舗併用住宅
- 業務用地・運輸倉庫用地

主な生活サービス拠点

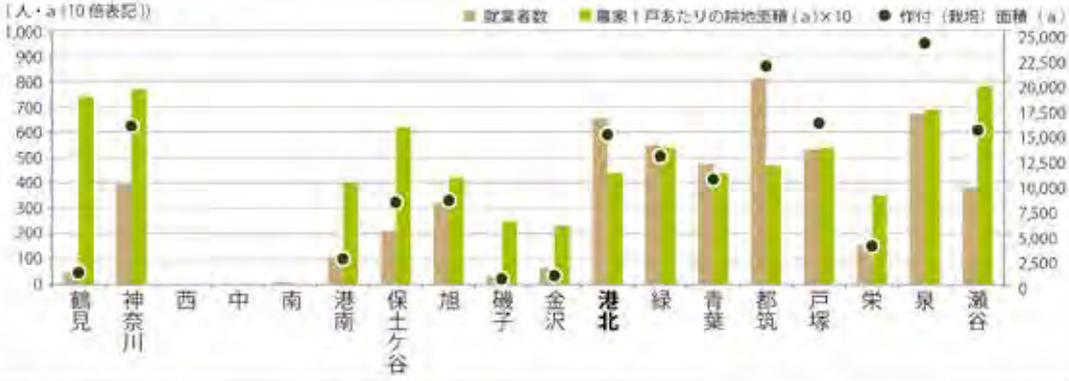
- 直売所
- 大規模小売店舗

- ※ 1) 農地、業務用地、商業用地、工業用地は平成 20 年都市計画基礎調査による。
- ※ 2) 直売所は平成 28 年 11 月現在、JA 横浜 HP と環境創造局はま菜ちゃん直売所マップ掲載による。
- ※ 3) 大規模小売店舗は平成 27 年現在の大規模小売店舗一覧（経済局）による。
- ※ 4) 商店街は一般社団法人横浜市商店街総連合会作成の区別商店街リストによる。

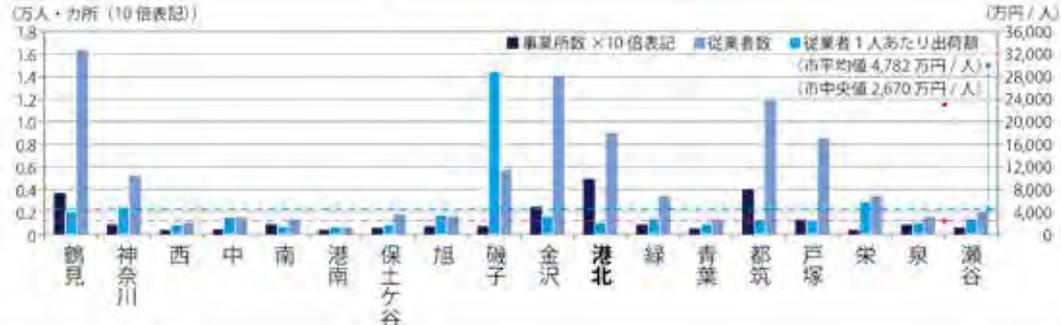
産業別従業者



農業の事業規模 区別比較



製造業の事業規模 区別比較



サービス業の事業規模 区別比較



大型小売店舗の事業規模の推移 (大型小売店統計調査)



港北区の産業構造は、サービス業が約85%、次に製造業が約14%、農業が0.4%を占め、全市的な傾向とほぼ同じ構成です。

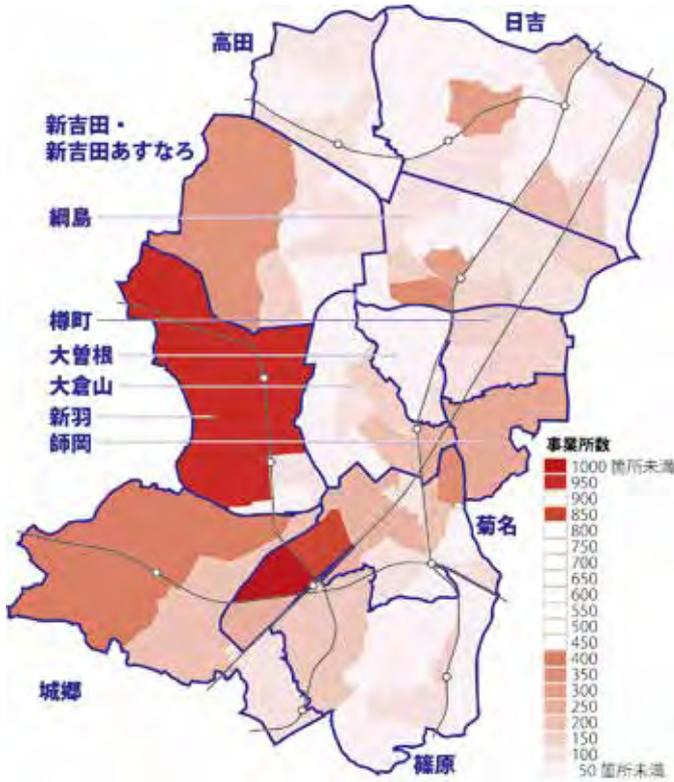
農家1戸あたりの耕地面積は全18区中8番目、就業者数は、5番目となっています。

工業の従業者1人あたりの出荷額が市平均値と中央値を下回り、比較的小規模な事業規模となっています。

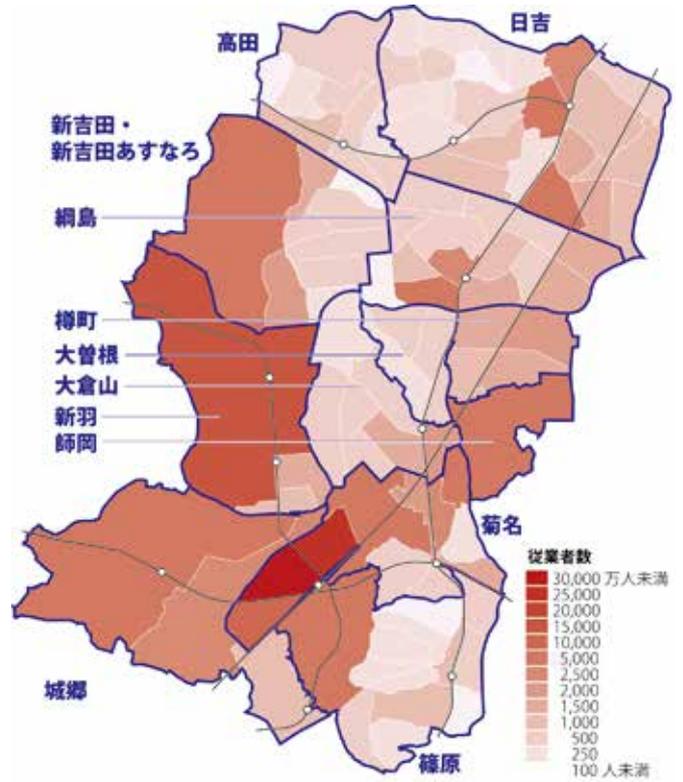
サービス業は事業所数、従業者ともに郊外区の中では最も数が多くなっています。

大規模小売店舗数は、店舗数は年々増加していますが、店舗当たりの売り場面積と従業者数あたりの販売額はやや減少傾向にあります。

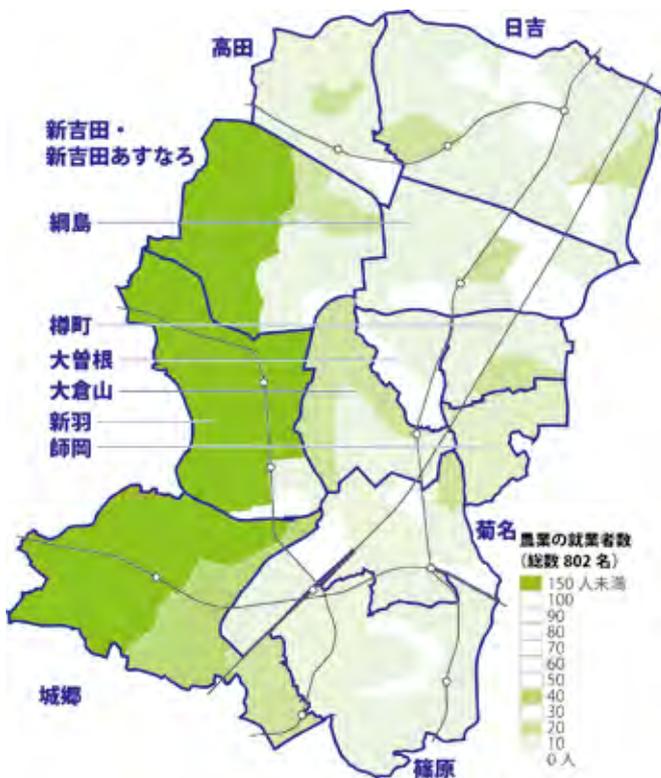
事業所数 (2014 経済センサス)



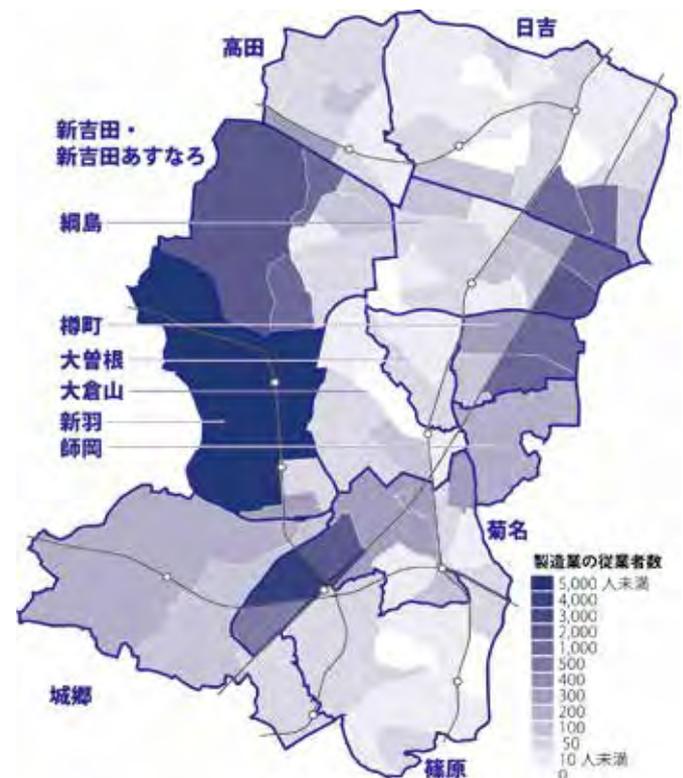
従業者数 (2014 経済センサス)



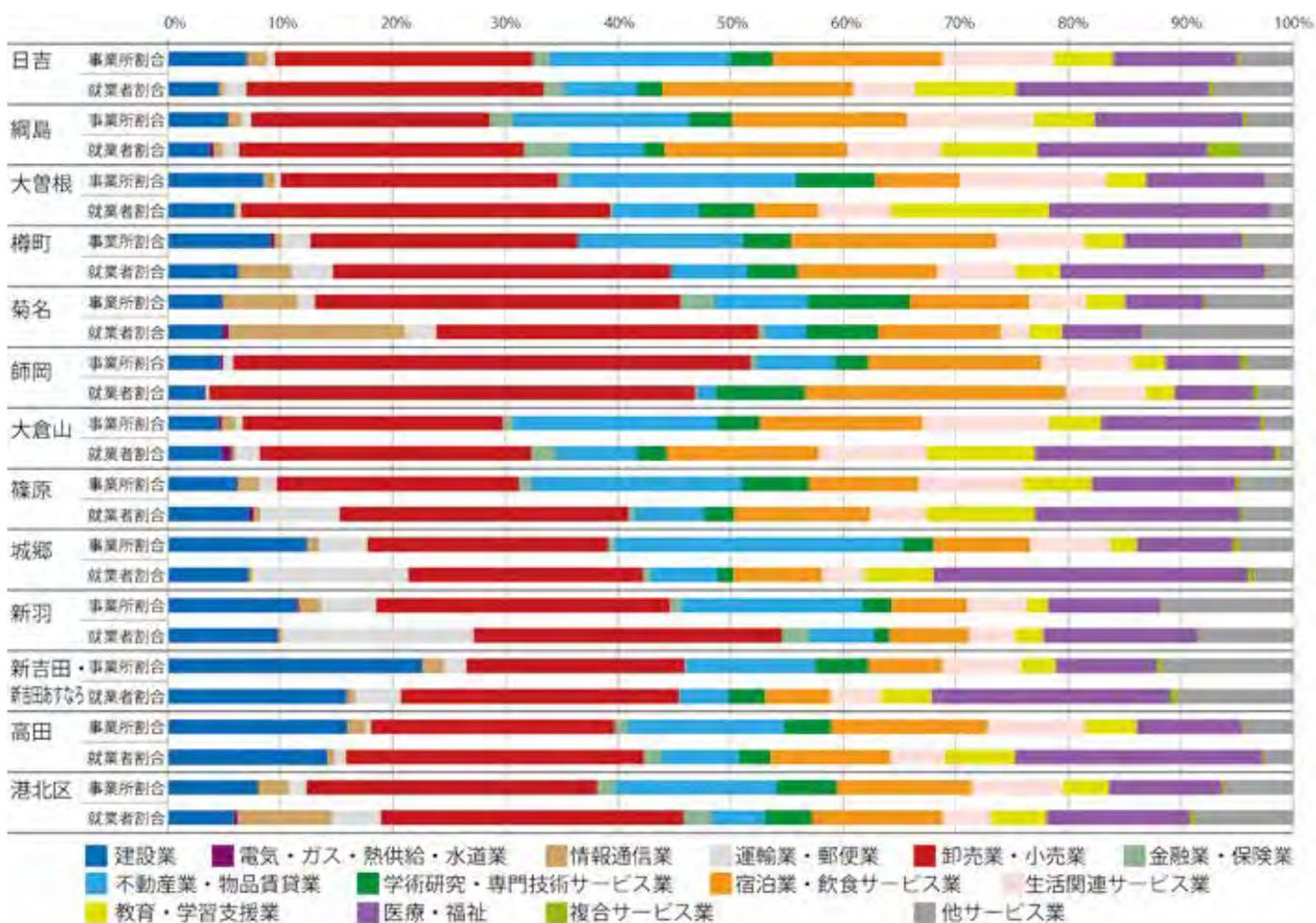
農業の就業者数 (2010 国勢調査)



製造業の従業者数 (2014 経済センサス)



地区別のサービス業の業種内訳 (2014 経済センサス)



人口と世帯

年齢別人口

定住する理由

住宅概況

地域活動

医療

福祉と教育

防災

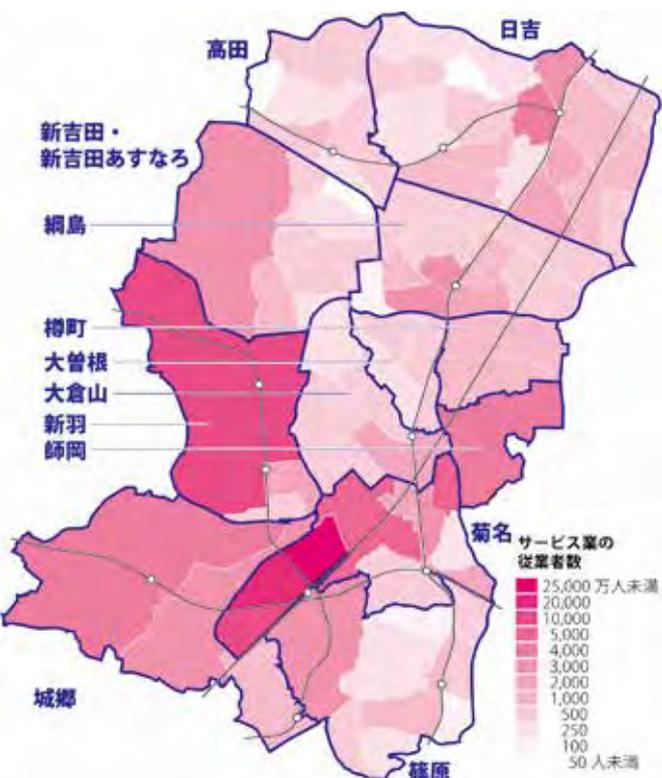
自然と公園

生活利便

交通

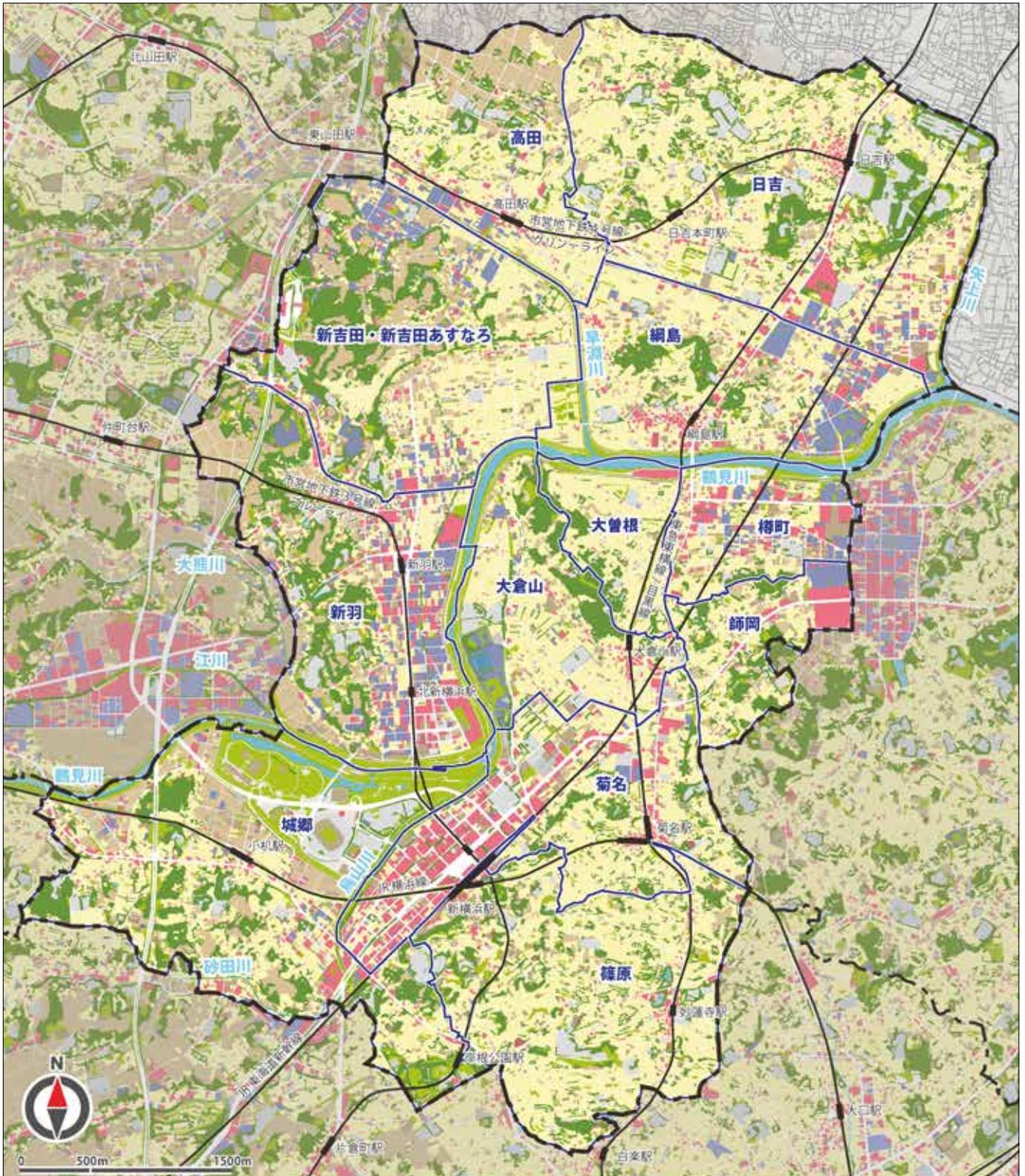
産業

サービス業の従業者数 (2014 経済センサス)



区内で最も事業所が多いのは、新羽地区と新横浜地区 (左頁上左図) です。従業者数の分布も事業所数の分布におおよそ比例 (左頁上右図) して、新横浜駅前と新羽地区が多いです。

従業者の構成は、農業 0.4% (638 人)、製造業 14.2% (2 万人)、サービス業 85.3% (12.5 万人) となっており (32 頁最上段)、全市的な傾向に比例しています。就業者・従業者の分布は、産業別に異なります。農業の就業者が多いのは、区西部の新吉田・新吉田あすなろ、新羽、城郷地区 (左頁左下図) です。製造業の従業者が多いのは、区西部の新羽、新吉田・新吉田あすなろと新横浜駅前地区、区東部の日吉・網島・樽町地区の東部地域の一部 (左頁右下図) です。サービス業の従業者は、ほぼ区内全域に分布しており、特に区中央部から南部地区に集中 (左図) しています。



現在の土地利用

※ 1) 土地利用は平成 20 年の都市計画基礎調査より。
 ※ 2) 緑被は平成 26 年第 10 次緑地環境診断調査より。
 ※ 3) 基盤地図情報 2016 年 7 月現在。

自然的土地利用	都市的土地利用
樹林地	住宅
農地	商業・業務
草地	工業
河川	公共公益・文教厚生
	駐車場・未利用地等

地域わかリマス 2017
 横浜市港北区役所地域振興課地域力推進担当
 横浜市地形図複製承認番号 平 29 建都計第 9013 号
 平成 29 年 8 月発行
 TEL045-540-2247 FAX045-540-2245
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kouhoku/sinkou/wakarimasu/>